
Ness1000 シリーズ
Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2021
システム・セットアップ/リカバリー・ガイド
(Ness1000/Ness1100/Ness1200)

第 1.0 版

2023/12/08



データで未来をつなぐ

更新履歴

版数	日付	内容
1.0	2023/12/08	初版

1. はじめに

本書に含まれる内容は予告なく変更される場合があります。

株式会社ニューテックは、本書に記載された製品の適合性、暗黙の保証、運用における損害、及び、本書の使用に関連した損害について責任を負いかねます。また、本書に記載された製品へ記録されたデータについて、その消失・誤記録における責任を負いかねます。

(データのバックアップは、システム管理者の責任において実施が必要です。)

本書は、著作権によって保護された情報を含んでおり、本書のいかなる部分も、株式会社ニューテックの書面による許可の無いまま、コピー、再版、他言語への翻訳を行ってはいけません。

株式会社ニューテック

<https://www.newtech.co.jp>

Copyright© 2023, Newtech Co., Ltd. All rights reserved.

2. 本書について

本書は、Ness1000 シリーズ (Ness1000、Ness1100、Ness1200) のハードウェア導入を完了した後の Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2021 (以下 Windows 10) のセットアップと運用にあたっての注意事項、リカバリー (出荷時構成の復元) について説明したものです。ご利用を開始する前にご一読下さい。

Ness1000 シリーズ (以下 Ness) の操作・使用方法につきましては別途「Ness1000 シリーズ ユーザーズマニュアル」を併せてご参照下さい。

Windows 10 の機能につきましては、Microsoft 社のサポートサイトもご参考ください。

3. 目次

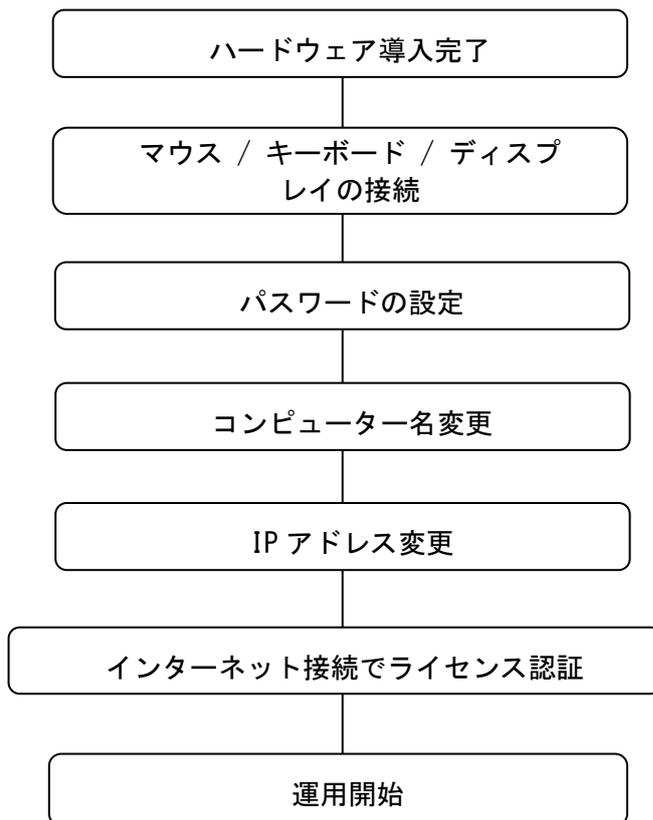
1. はじめに.....	III
2. 本書について.....	III
3. 目次.....	IV
4. WINDOWS 10 セットアップ.....	1
4-1. セットアップの流れ.....	1
4-2. 用意するもの.....	2
4-3. セットアップ手順.....	2
4-3-1. Windows の初期セットアップ.....	2
4-3-2. コンピューター名の変更.....	9
4-3-3. IP アドレスの変更.....	10
4-3-4. ライセンス認証.....	13
4-4. RAID 監視ツール(MIRROR MONITOR)の導入.....	15
4-5. ボリュームの作成.....	18
5. 運用時の注意事項.....	23
5-1. OS プロダクト CD.....	23
5-2. WINDOWS UPDATE.....	23
5-3. 2TB 以上のディスク認識.....	24
6. WINDOWS 10 操作/設定手順.....	25
6-1. OS のシャットダウン.....	25
6-2. ユーザーの作成.....	26
6-3. 共有フォルダーの作成.....	28
6-4. ネットワークドライブの割り当て.....	35
6-5. 日時の設定.....	37
6-6. パスワードの変更.....	39
7. リモートデスクトップ設定.....	41
7-1. 本製品側の接続設定.....	41
7-2. ファイアウォール設定の確認.....	43
7-3. WINDOWS10 など PC からの接続.....	45
8. リカバリー手順.....	47
8-1. 準備部材.....	47
8-2. リカバリー手順.....	47

4. Windows 10 セットアップ

4-1. セットアップの流れ

Windows 10 を利用するためには、ハードウェアの導入を完了した後で OS のセットアップを行う必要があります。ここでは、Windows 10 のセットアップについて説明します。

以下に、Windows 10 を利用するまでの流れを記します。



4-2. 用意するもの

- ①アナログ RGB コネクタ (D-Sub15 ピン) または HDMI ポートを持つディスプレイ
- ②キーボード (Ness1100:USB; Ness1000・Ness1200: USB or PS2)
- ③マウス (Ness1100:USB; Ness1000・Ness1200: USB or PS2)
- ④アクティベーションを行うためのインターネット接続環境もしくは電話
- ⑤既存ネットワーク接続用のネットワークケーブル

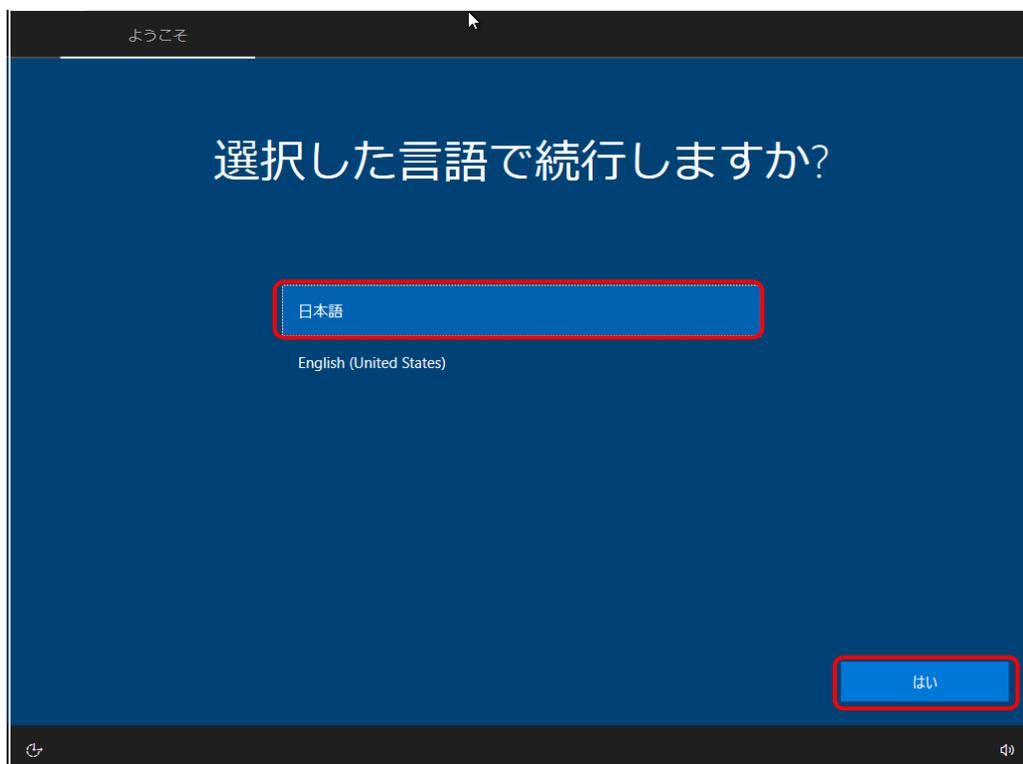
4-3. セットアップ手順

Ness 本体背面にマウス、キーボード、ディスプレイを接続します。この時ネットワークケーブルは接続しないで下さい。

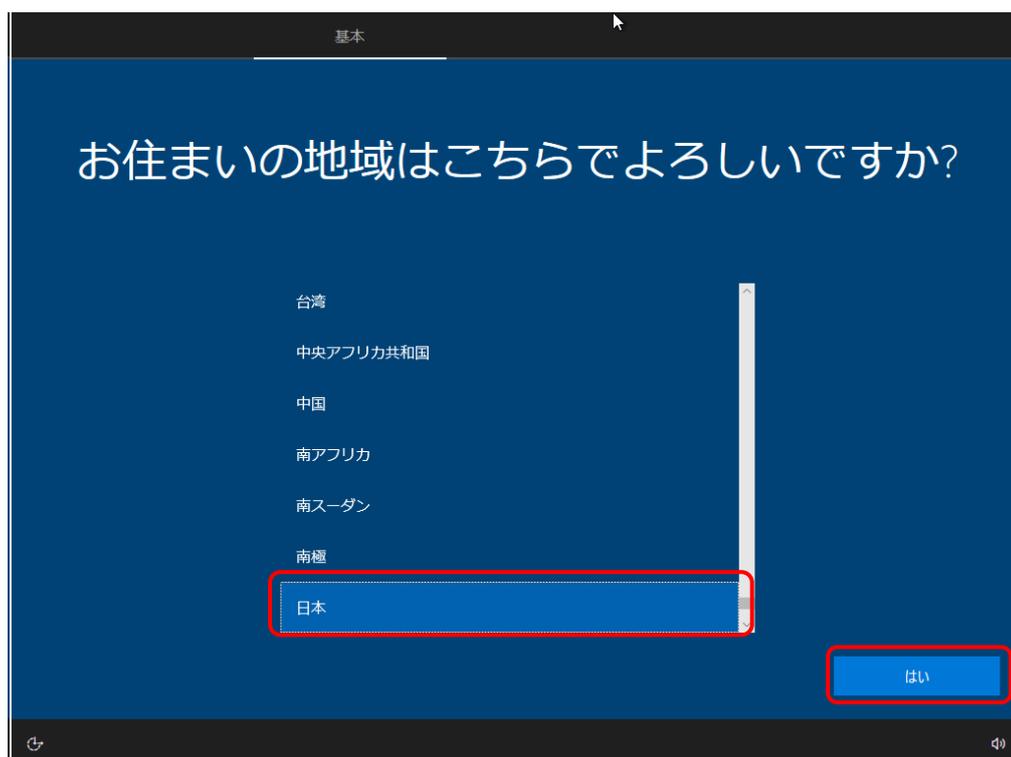
Ness 本体の電源を入れます。その後 Windows のセットアップが表示されます。

4-3-1. Windows の初期セットアップ

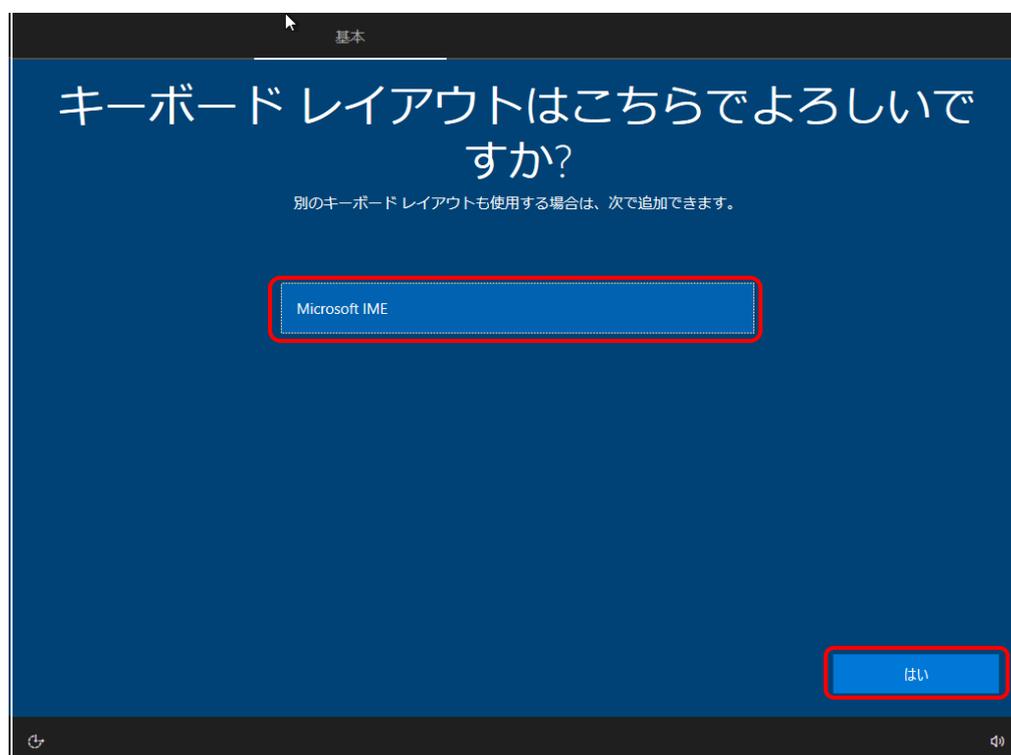
Windows ロゴが表示して、しばらく経ったら、言語選択画面で、[日本語]を選択し、[はい]をクリックします。



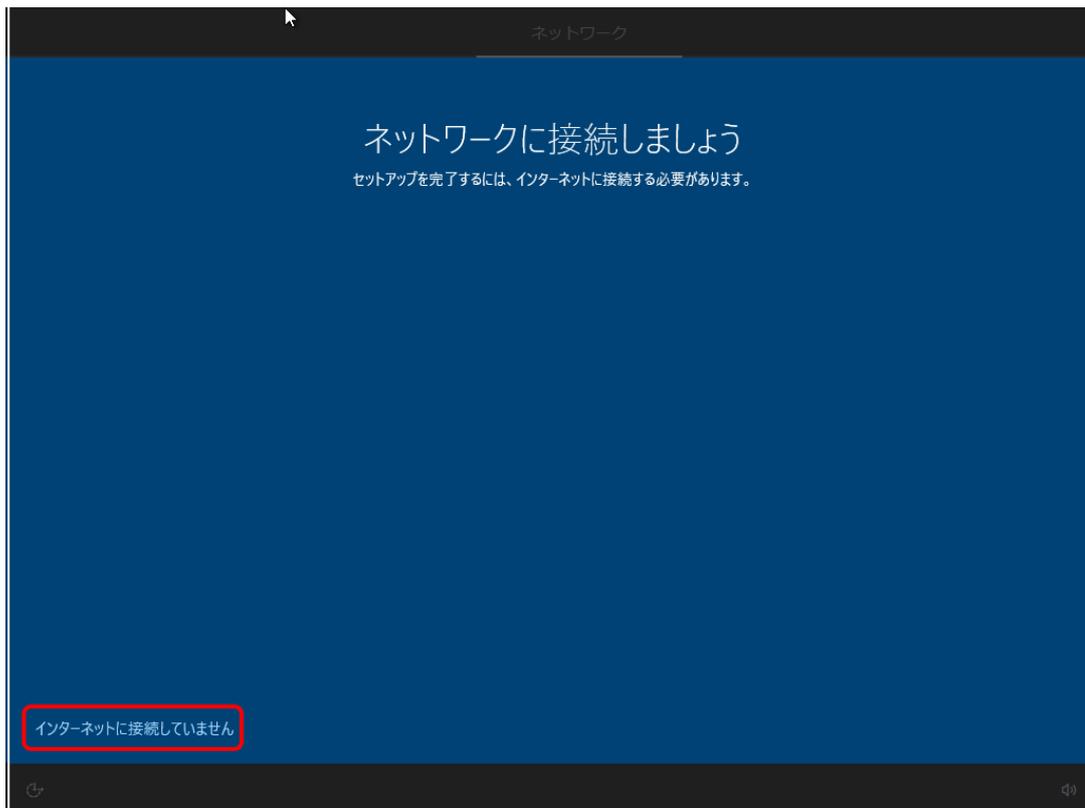
地域選択画面で、[日本]を選択し、[はい]をクリックします。



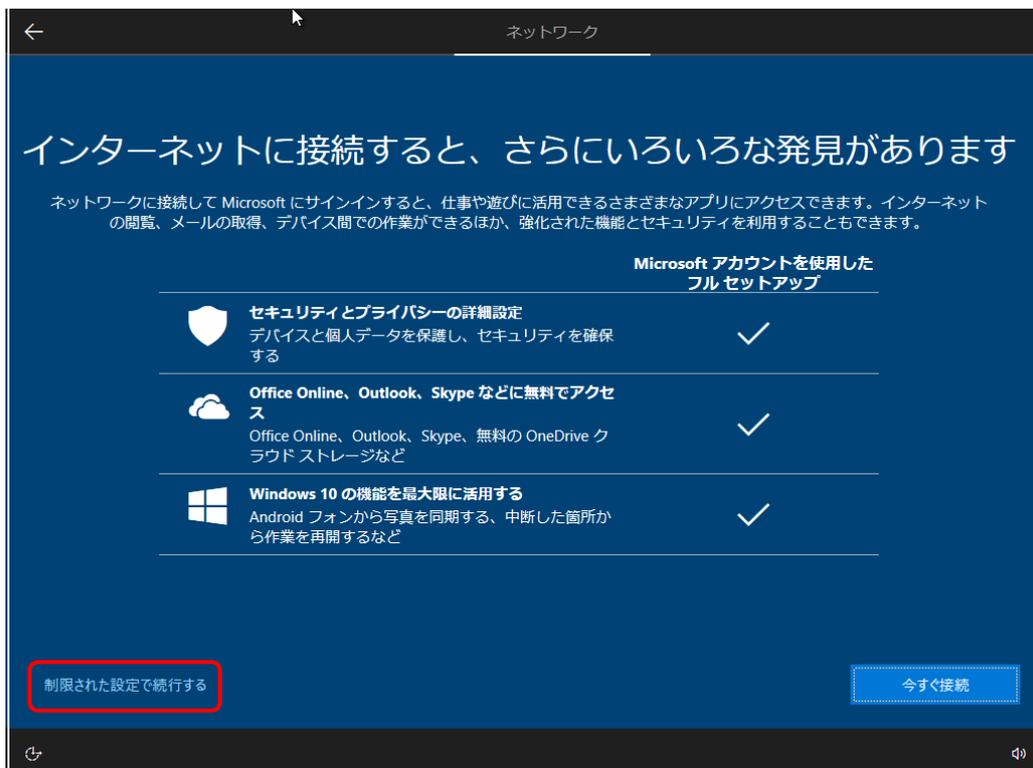
キーボード レイアウト選択画面で、[Microsoft IME]を選択し、[はい]をクリックします。



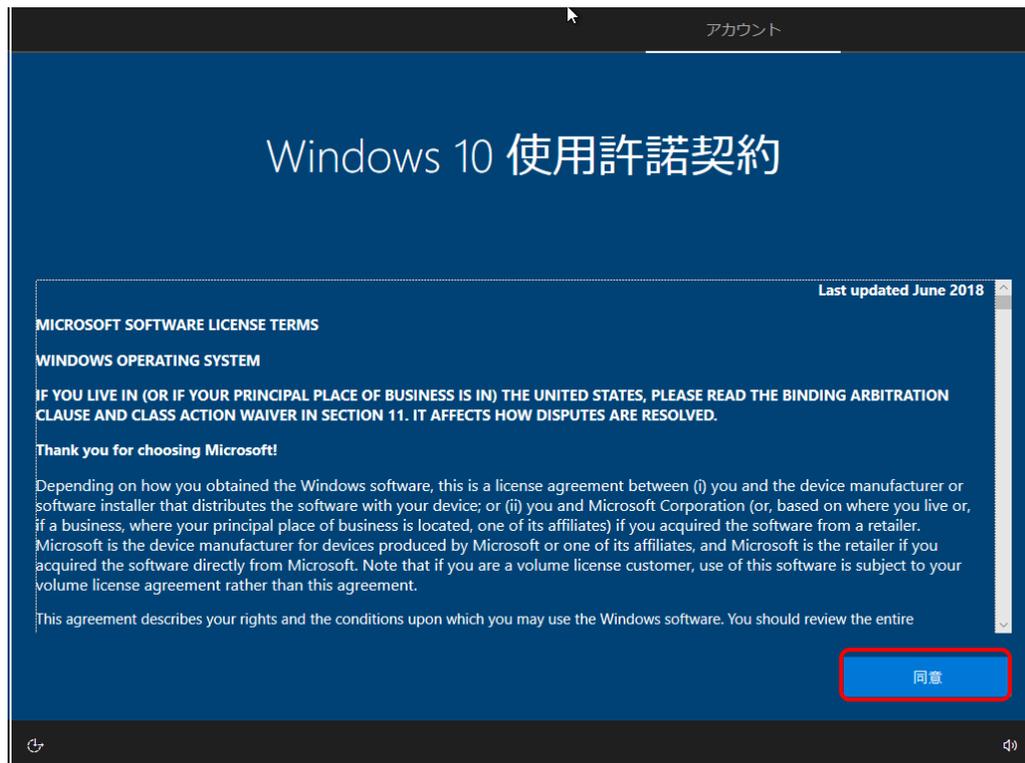
ネットワーク接続画面で、[インターネットに接続していません]をクリックします。



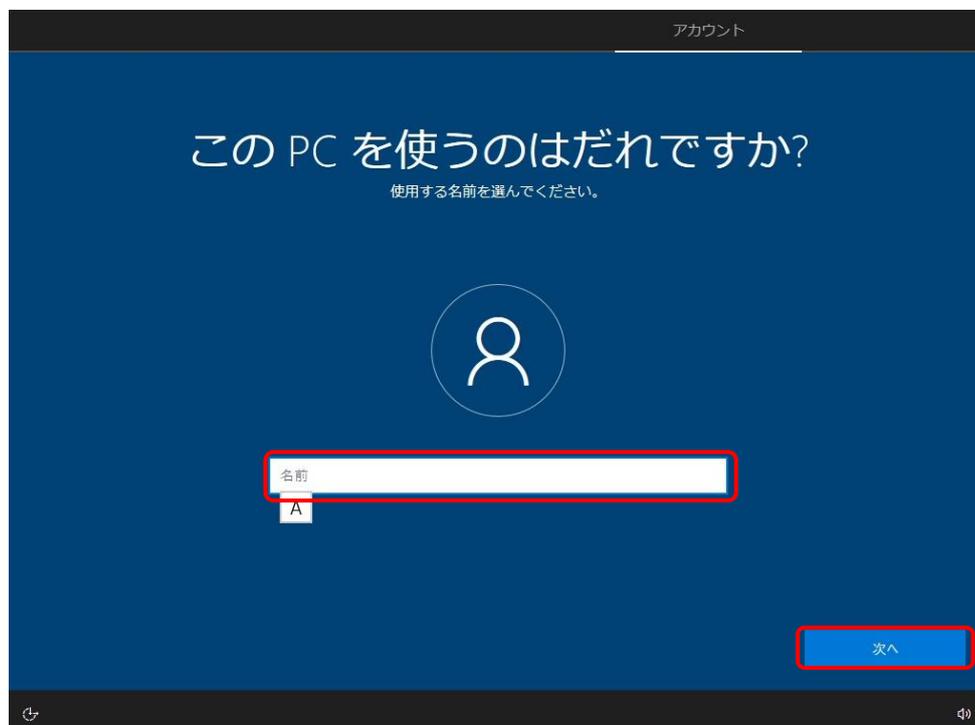
ネットワークの再確認画面で[制限された設定で続行する]をクリックします。



契約確認画面でライセンス条項を読んで、同意する場合は、[同意]をクリックします。

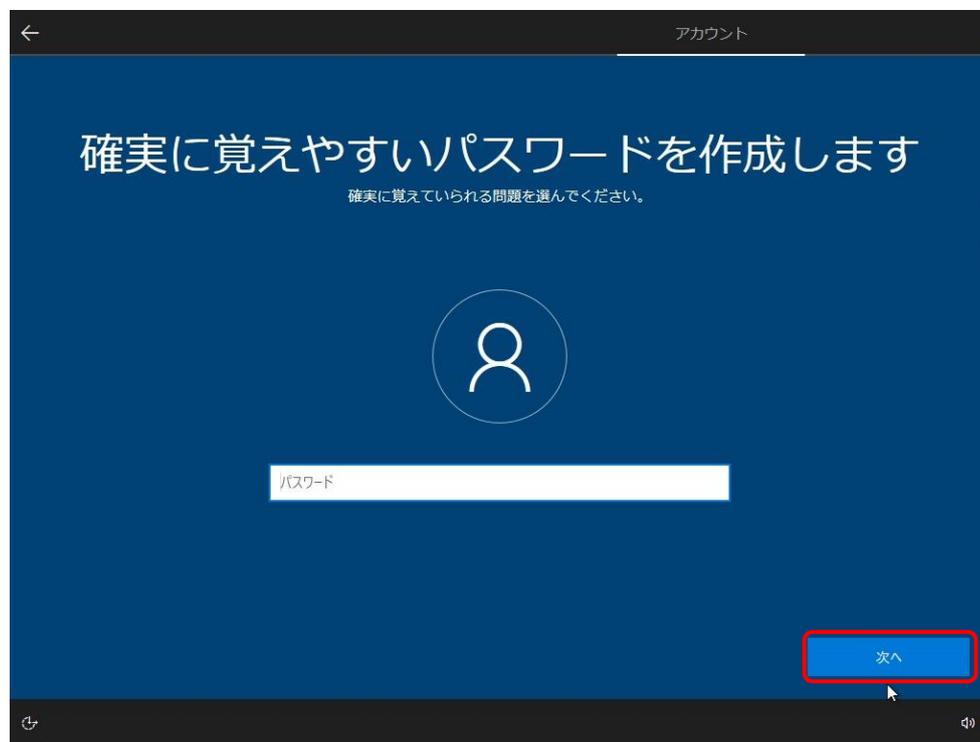


ユーザー作成画面で、作成するユーザー名を入力して、[次へ]をクリックします。

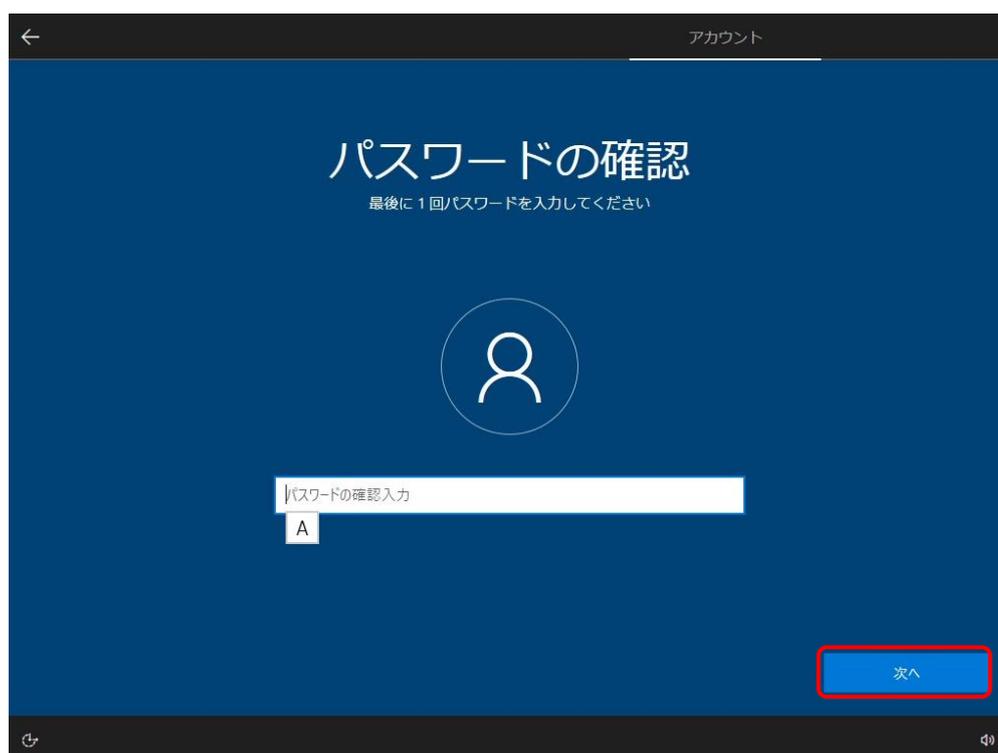


パスワード設定画面で、パスワード入力して、[次へ]をクリックします。パスワードは省略も可能です。

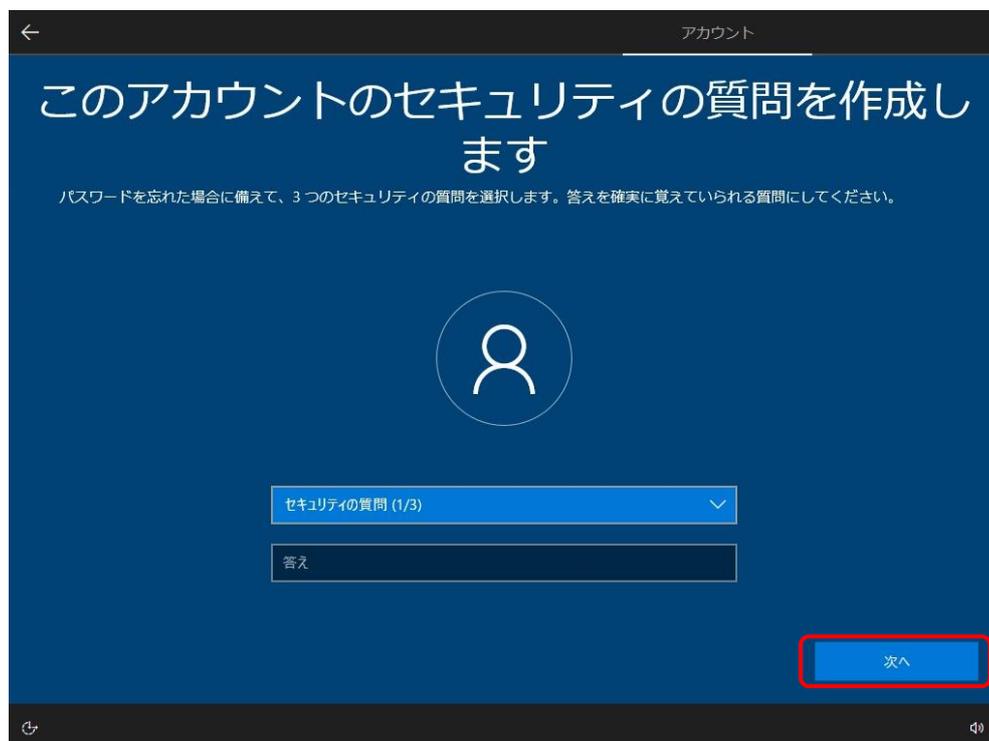
注意： パスワードを忘れると、ログオンすることができなくなりますのでメモを取るなどの対処をお願いします。



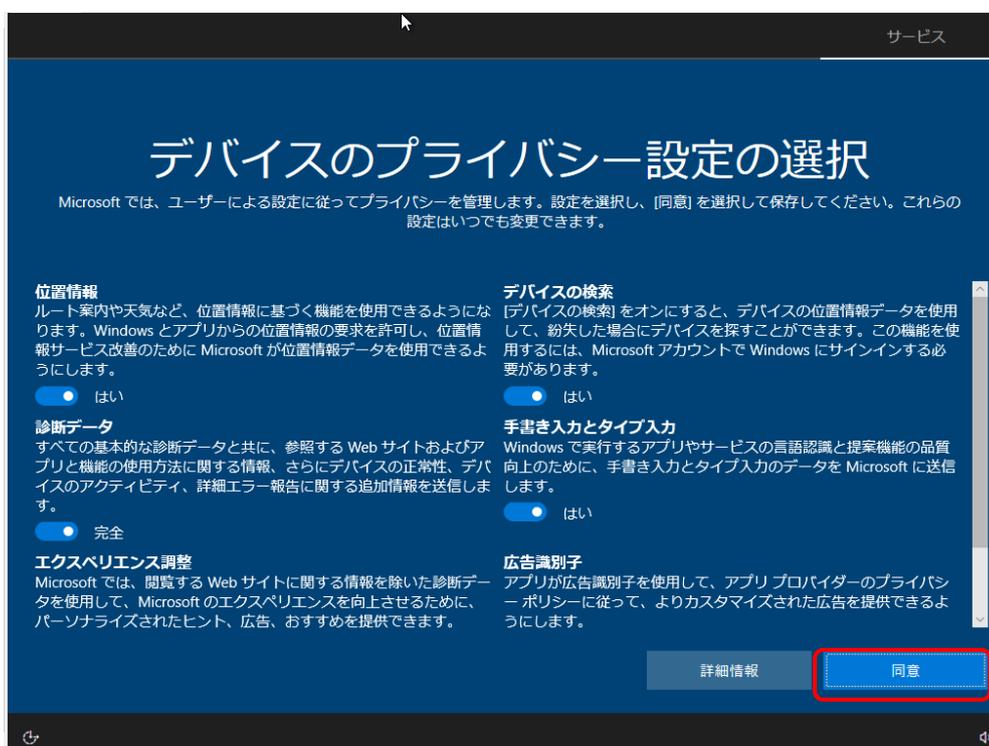
もう一度パスワードの確認入力をして、[次へ]をクリックします。



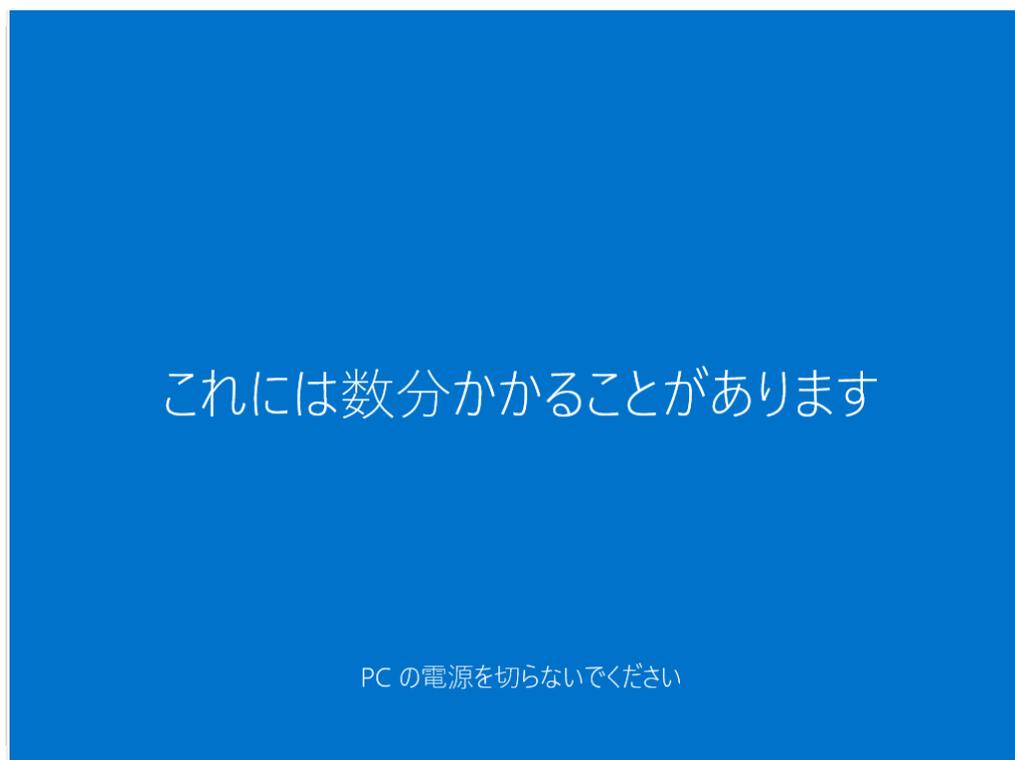
3つのセキュリティの質問を選択して、答えを設定します。パスワードを忘れた場合に3つのセキュリティの質問と答えでパスワードをリセットできます。



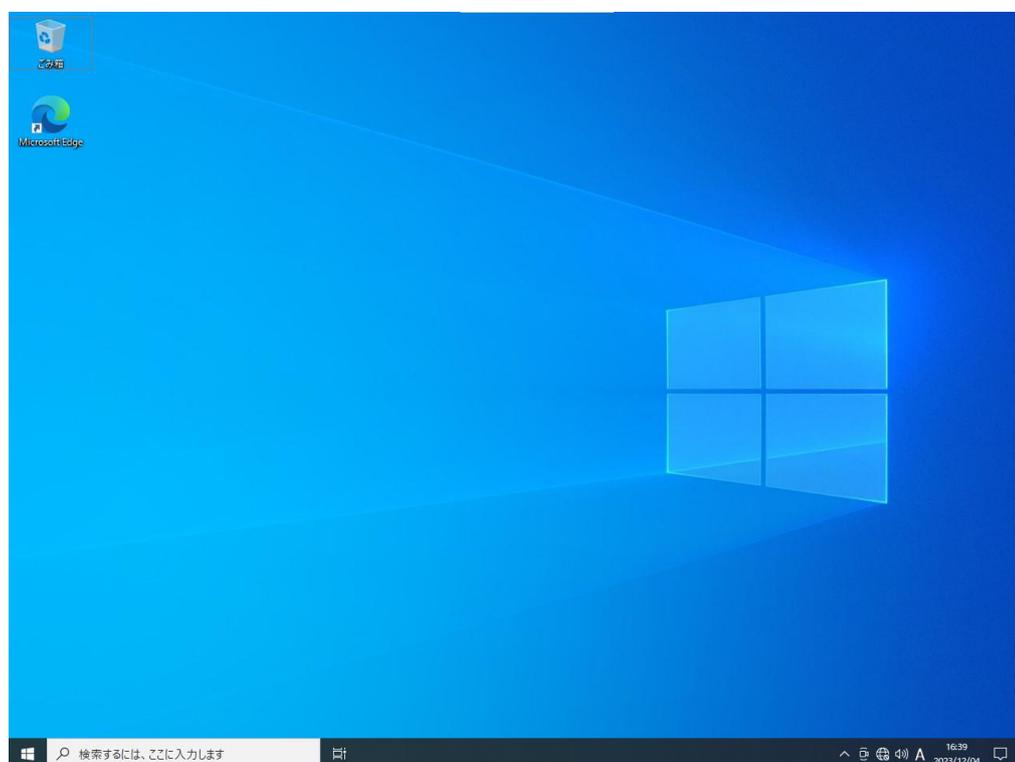
プライバシー設定画面で、必要に応じて設定を変更して、[同意]をクリックします。



数分を待つ、途中で画面が数回変わります。



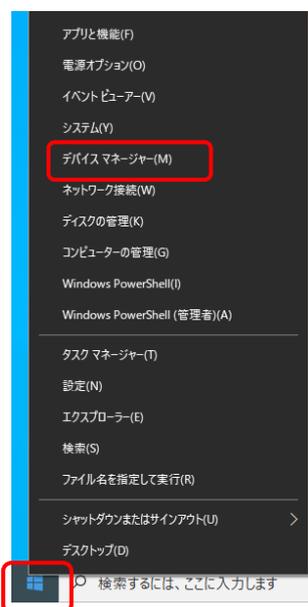
Windows デスクトップ画面が表示されます。



これで、Windows 初期セットアップが完了です。

4-3-2. コンピューター名の変更

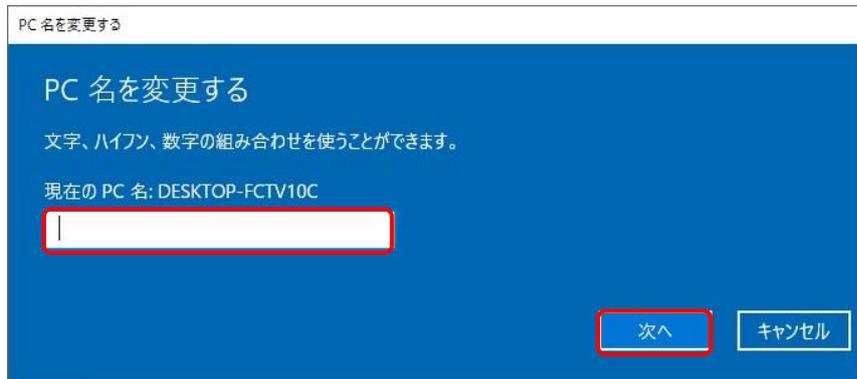
[スタート]  ボタンを右クリック→[システム]を選択します。



[この PC の名前を変更] をクリックします。



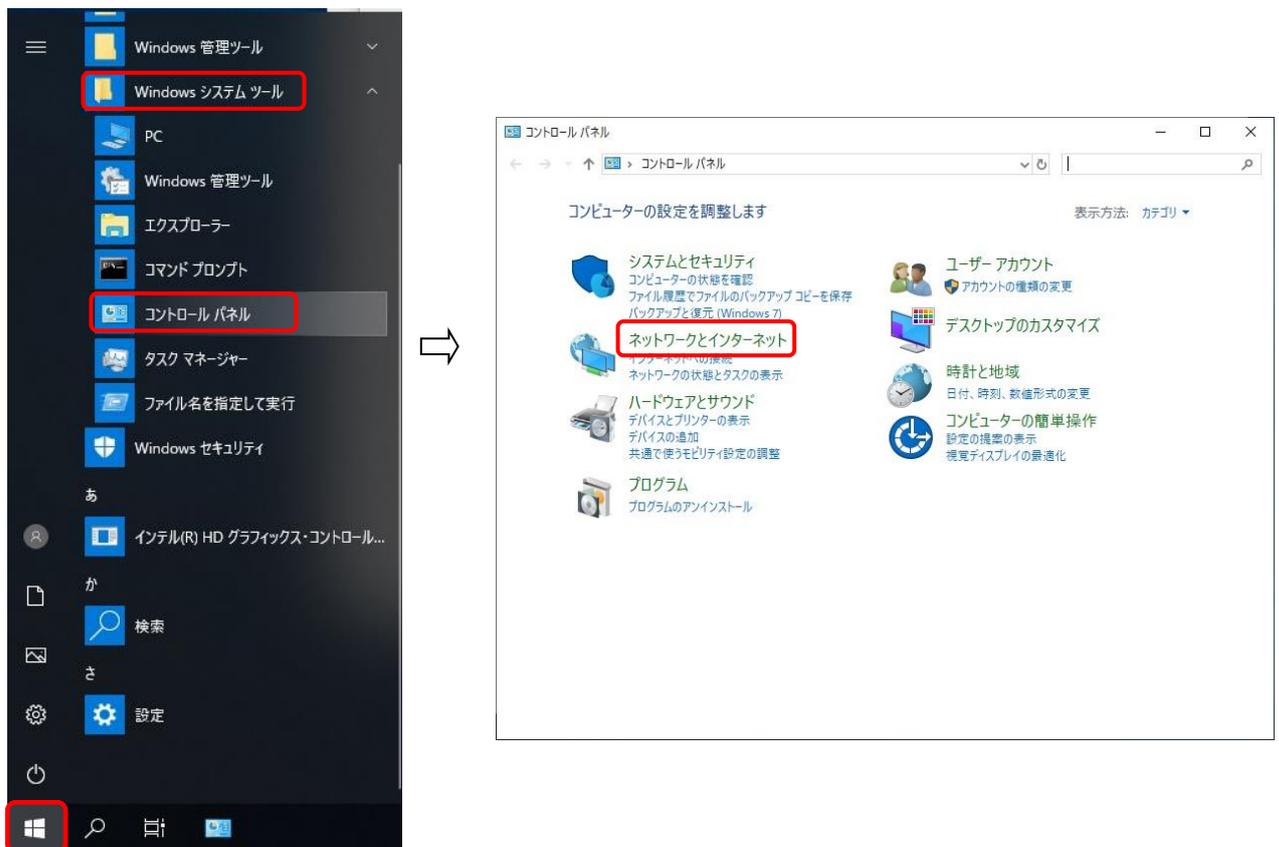
入力欄に変更後のコンピューター名を入力して、[次へ]をクリックして、[今すぐ再起動する]を選択して、再起動してから変更後のコンピューター名になります。



4-3-3. IP アドレスの変更

デフォルトでは 2 ポートとも、“IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)” となっています。

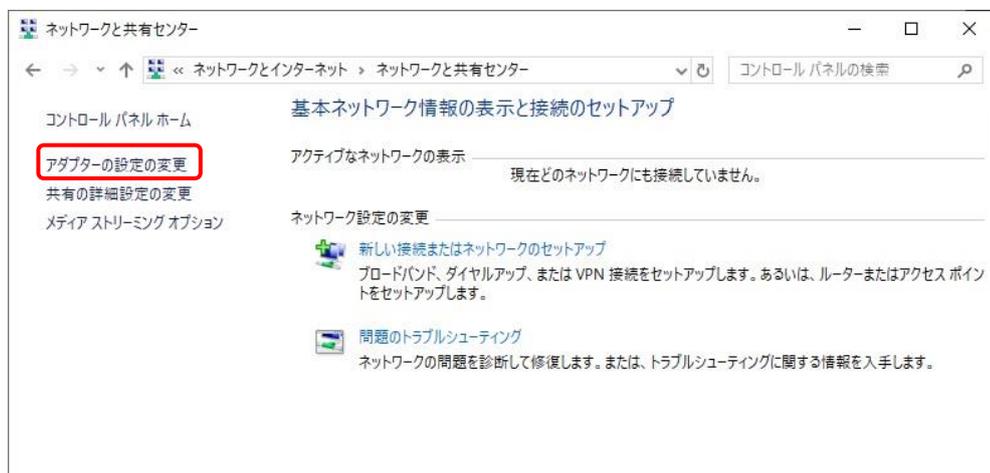
[スタート]  ボタンを左クリック → [Windows システム ツール] → [コントロールパネル] → [ネットワークとインターネット] を選択します。



[ネットワークと共有センター]を選択します。



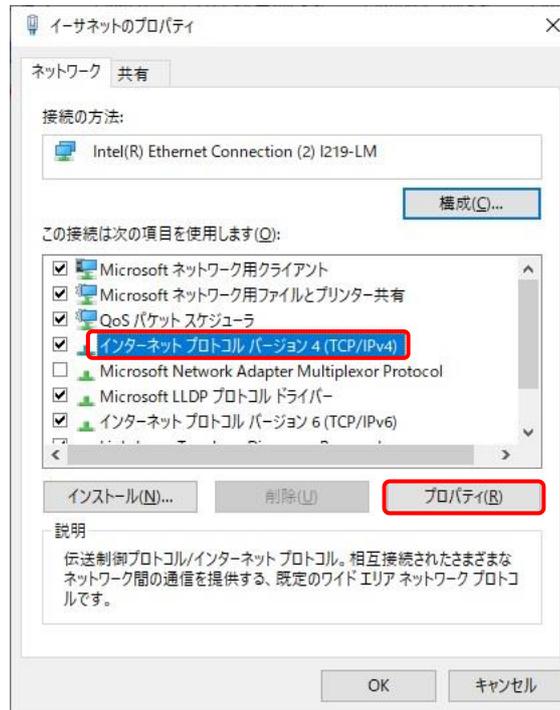
[アダプターの設定の変更]をクリックすると、[ネットワーク接続]画面が開きます。



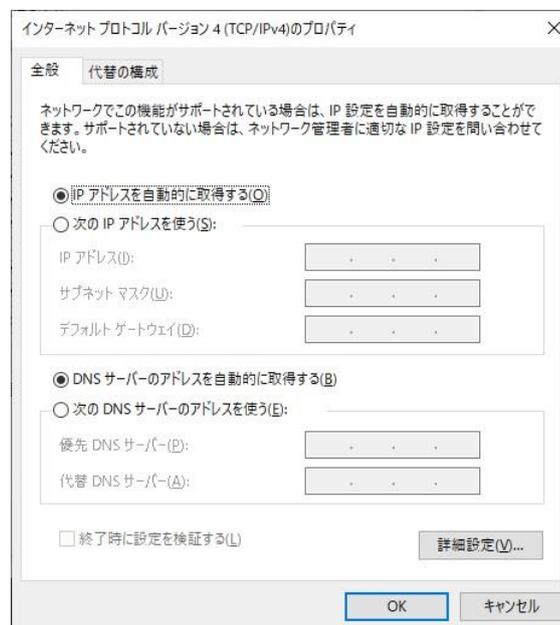
変更するイーサネット（ローカルエリア接続）を右クリックして [プロパティ] を選びます。



【インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IP)] (ご利用環境によってはバージョン 6) をハイライトして【プロパティ】を押して、IP アドレスを設定します。



“インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IP)のプロパティ” 画面にて IP アドレスを設定します。



Ness 本体にネットワークケーブルを挿して、“ネットワーク接続”画面の各ローカルエリア接続の状態が“ネットワークケーブルが接続されていません”から“接続”になることを確認します。

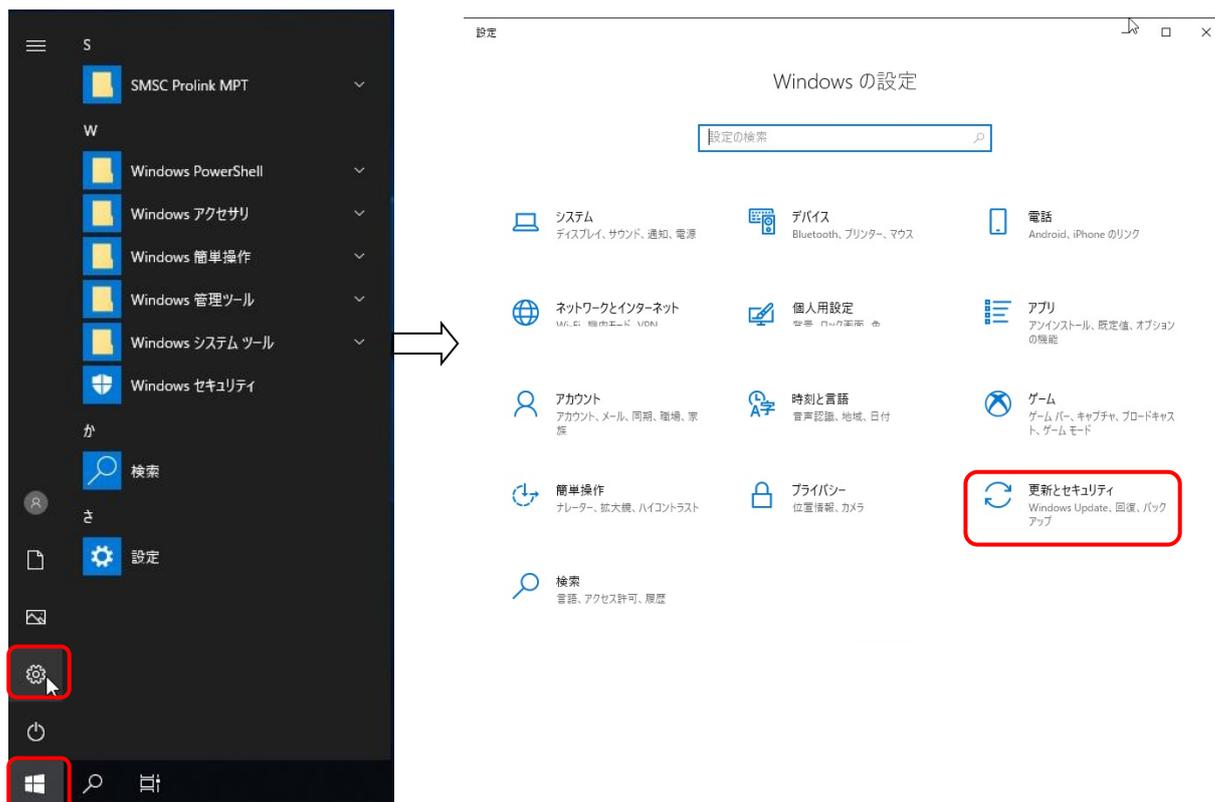
注意： Windows 10 利用開始の際、必ず“運用時の注意事項”（後述）をご確認下さい。

4-3-4. ライセンス認証

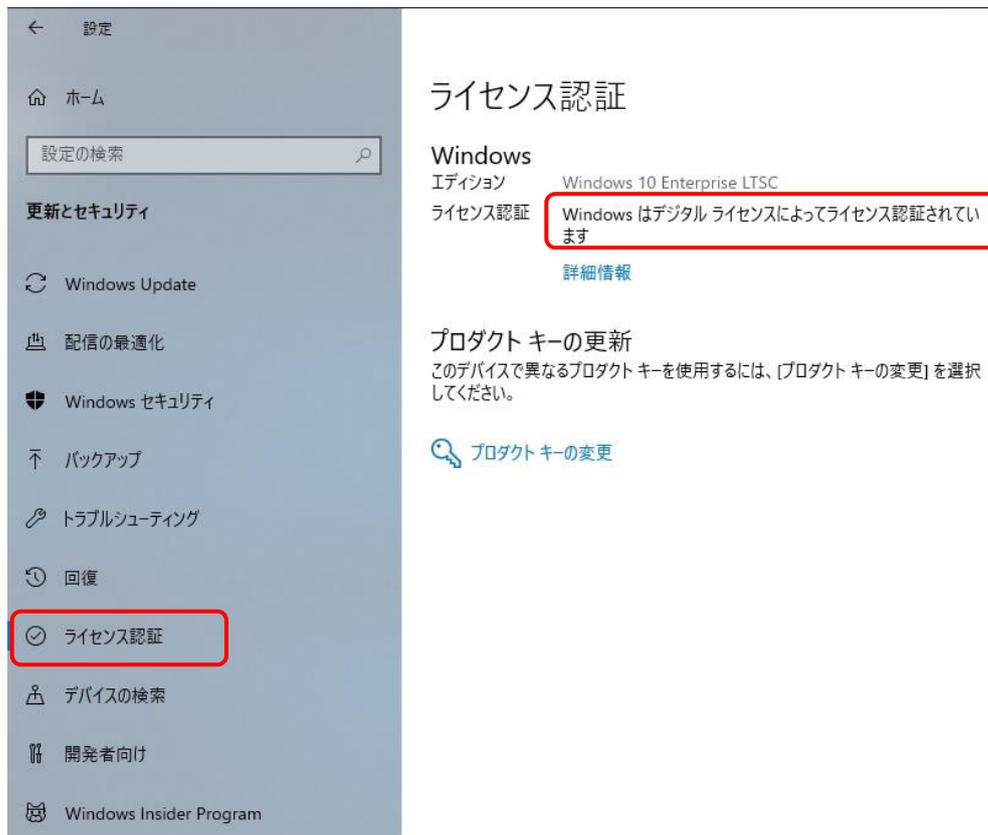
ライセンス認証はインターネット経由で自動認証します。

ライセンス認証には、先にネットワークの設定を行ない、インターネットに接続されたことを確認してください。

ライセンス認証状況の確認には、[スタート]  ボタンを左クリック→[設定]を左クリック、**[更新とセキュリティ]**を選択します。



画面の左欄の[ライセンス認証]をクリックして、[ライセンス認証]欄に**Windows はデジタルライセンスによって認証されています。**”が表示されましたら、認証完了状態と示しています。



注意： [ライセンス認証]欄に“Windows はデジタル ライセンスによって認証されています。”以外の表示する場合、インターネットの接続されたことを確認して、数分または数時間を空け、再度上記の画面を開き、確認してください。

何度も認証できない場合、弊社のサポートセンターまでご連絡ください。

4-4. RAID 監視ツール (Mirror Monitor) の導入

※出荷状態で、Mirror Monitor がインストール済みなので導入不要。アンインストールされた場合のみ、このステップを実行してください。

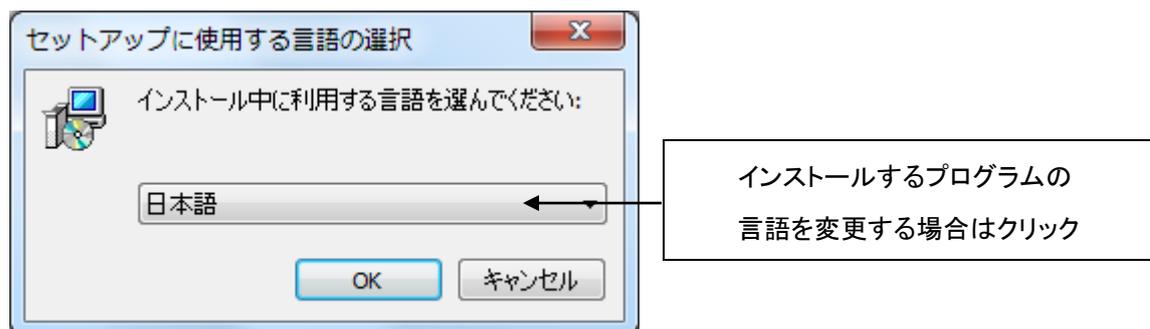
NTC Mirror Monitor (以下、モニタプログラム) をインストールするには、“C:\¥NTC¥Mirror” のフォルダーから、“NTCMirrorMonitor_setup_v1.5.6.0.exe”を実行します。インストール用のセットアッププログラムが実行されます。

注：上書きインストールはサポートされていません

ユーザー アカウント制御で、許可を聞かれる場合、[はい]を押してください。



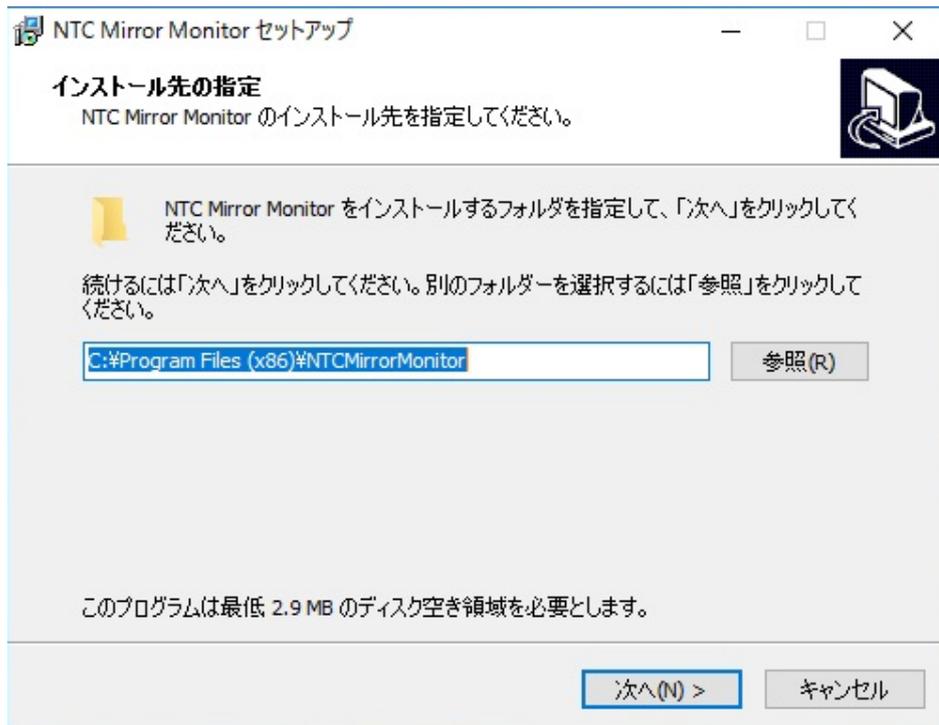
以下の画面が表示されます。



ここで選択した言語はインストール中のメッセージで使用される他、モニタプログラムの言語としても使用されます。本書では、【日本語】を選択した場合で説明を行います。

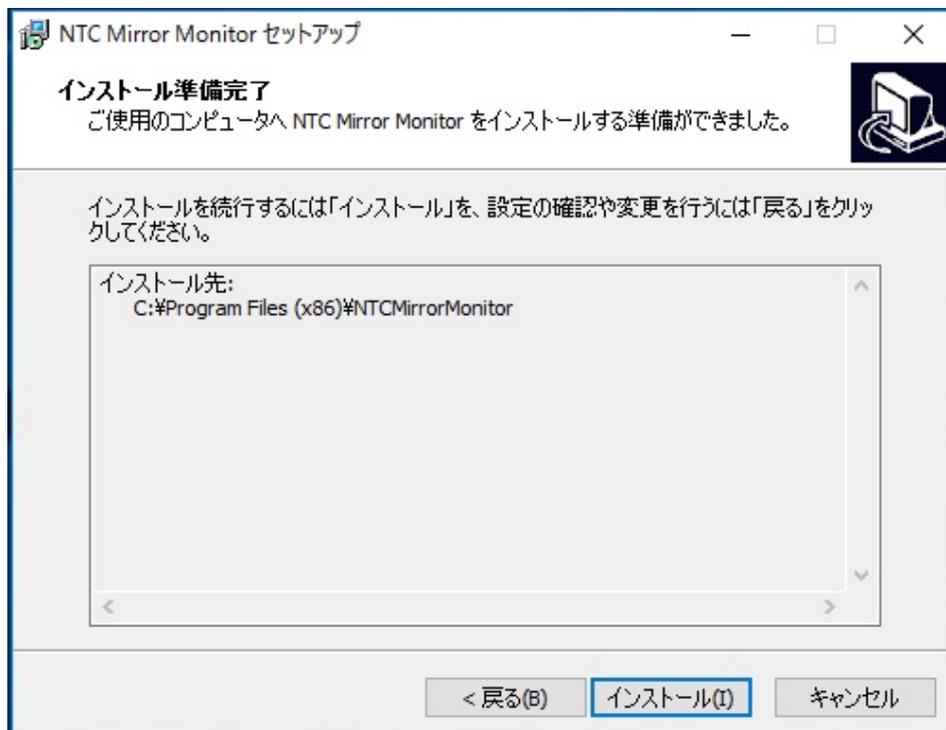
言語を選択したら [OK] を押してください。

以下の画面が表示されるので、インストール先のディレクトリを指定できます。



インストール先を指定したら、**[次へ]** を押してください。

以下の画面が表示され、インストールを行う準備ができました。



[インストール] を押すと、インストールが開始されます。

以下の画面が表示されれば、**【完了】** を押すと、インストールは完了です。

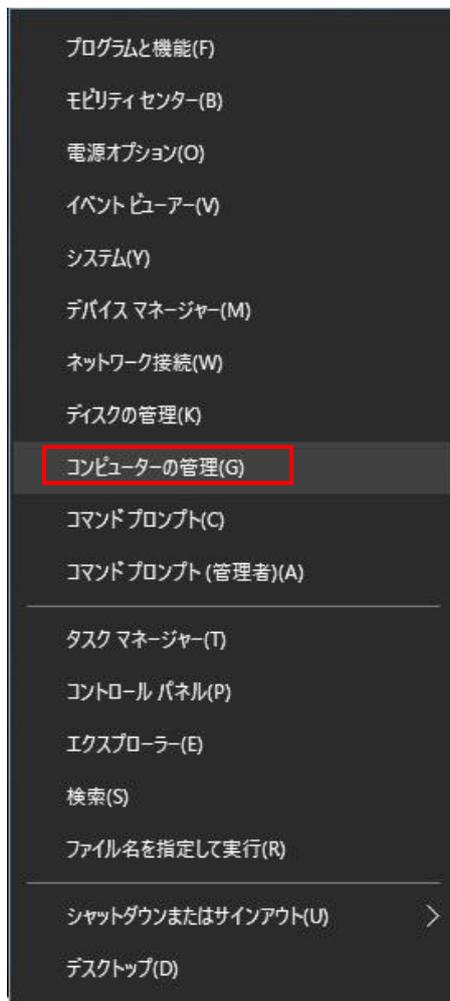


インストールが完了するとモニタプログラムは自動で起動し、監視を始めます。

インストール方法、ならびに、障害通知を含む設定の詳細は、「**Ness1000 シリーズミラーモニター Windows ユーザーズマニュアル**」を参照してください。

4-5. ボリュームの作成

データ保存に利用するボリュームの作成は、[スタート]  ボタンを右クリック→[コンピューターの管理] を選択します。

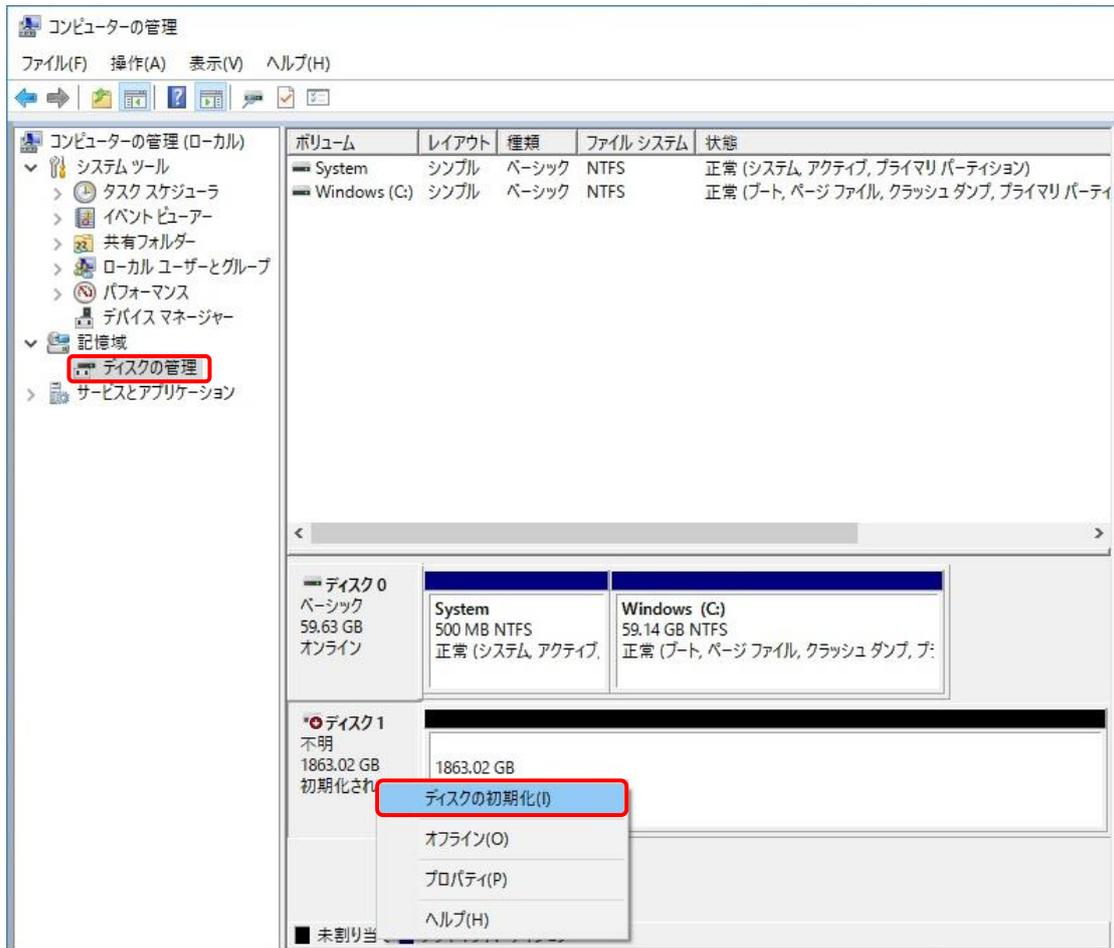


[記憶域] → [ディスクの管理] より、設定します。

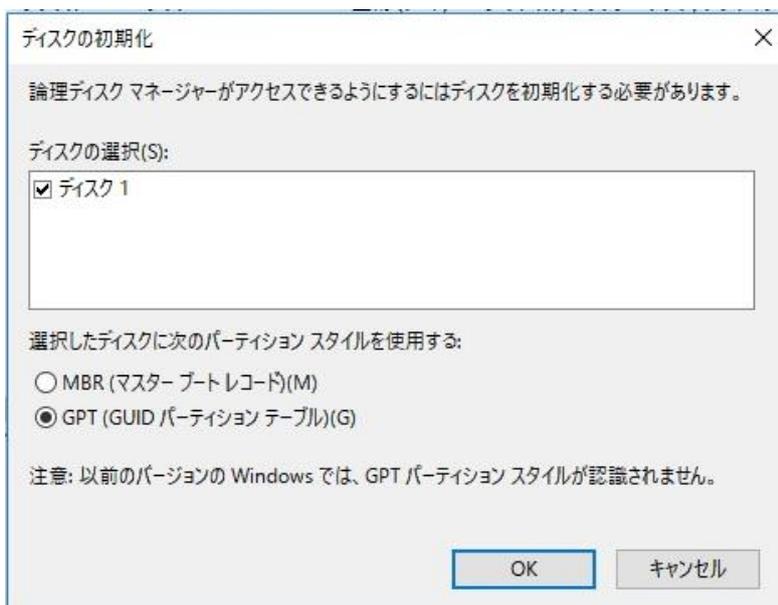
下記にボリュームの作成例を示します。本例では、ディスク 1 を使用可能にする例を示します。

ボリューム作成の前に、次章「**運用時の注意点**」を事前に確認してください。

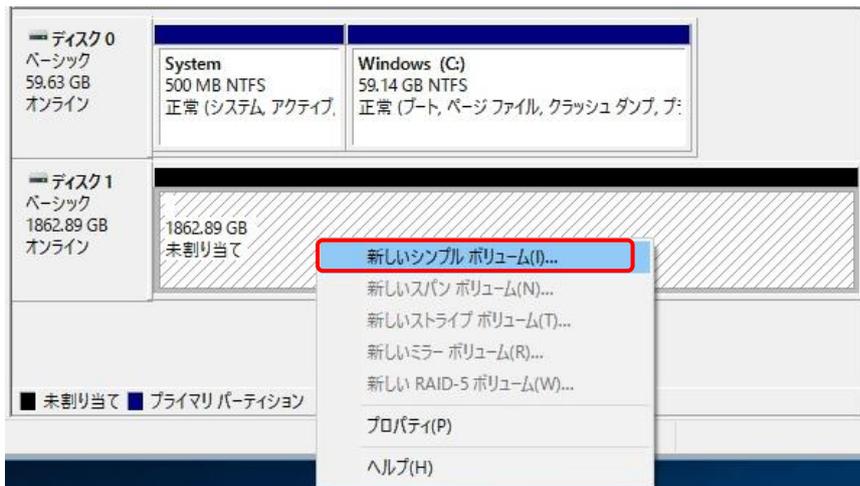
1. データ用ディスク（ここではディスク 1）に “初期化されていません” が表示されている場合は、最初に初期化を行います。右クリックから[ディスクの初期化]を選びます。



2. 2TB 以上のデータ用ディスクを使用しているの場合は、GPT ボリュームを選択します。[OK] を押します。



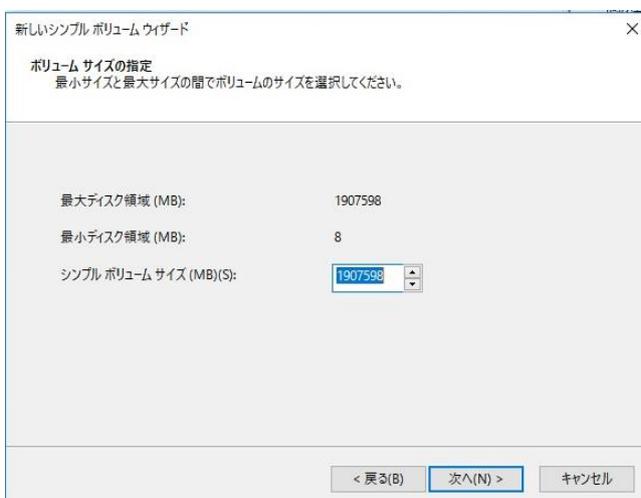
3. ボリューム作成のため、右クリックから、**[新しいシンプルボリューム]**を選択します。



4. ウィザードに従いボリュームを作成します。**[次へ]** を選びます。



5. ボリュームの容量を MB で指定します。指定しない場合は最大容量が入力されます。



6. ドライブレターを割り当てます。通常、C から始めて空いているいちばん若いアルファベットを利用します。その他の選択は、特殊用途以外では利用しません。

新しいシンプル ボリューム ウィザード

ドライブ文字またはパスの割り当て
アクセスを簡単にするために、ドライブ文字またはドライブ パスをパーティションに割り当てることができます。

次のドライブ文字を割り当てる(A): D

次の空の NTFS フォルダにマウントする(M): 参照(R)...

ドライブ文字またはドライブ パスを割り当てない(D)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. フォーマットの設定を行います。

- ・ファイルシステム：NTFS を選択します。他のファイルシステムは使用しないでください。
- ・アロケーションユニットサイズ：パーティションのアロケーションユニットサイズを指定します。
- ・ボリュームラベル：マイコンピュータ等から表示されるボリュームラベルを設定します。
- ・クイックフォーマット：通常はチェックボックスを有効にします。

新しいシンプル ボリューム ウィザード

パーティションのフォーマット
このパーティションにデータを格納するには、最初にパーティションをフォーマットする必要があります。

このボリュームをフォーマットするかどうかを選択してください。フォーマットする場合は、使用する設定を選択してください。

このボリュームをフォーマットしない(D)

このボリュームを次の設定でフォーマットする(O):

ファイル システム(F): NTFS

アロケーション ユニット サイズ(A): 既定値

ボリューム ラベル(V): ボリューム

クイック フォーマットする(P)

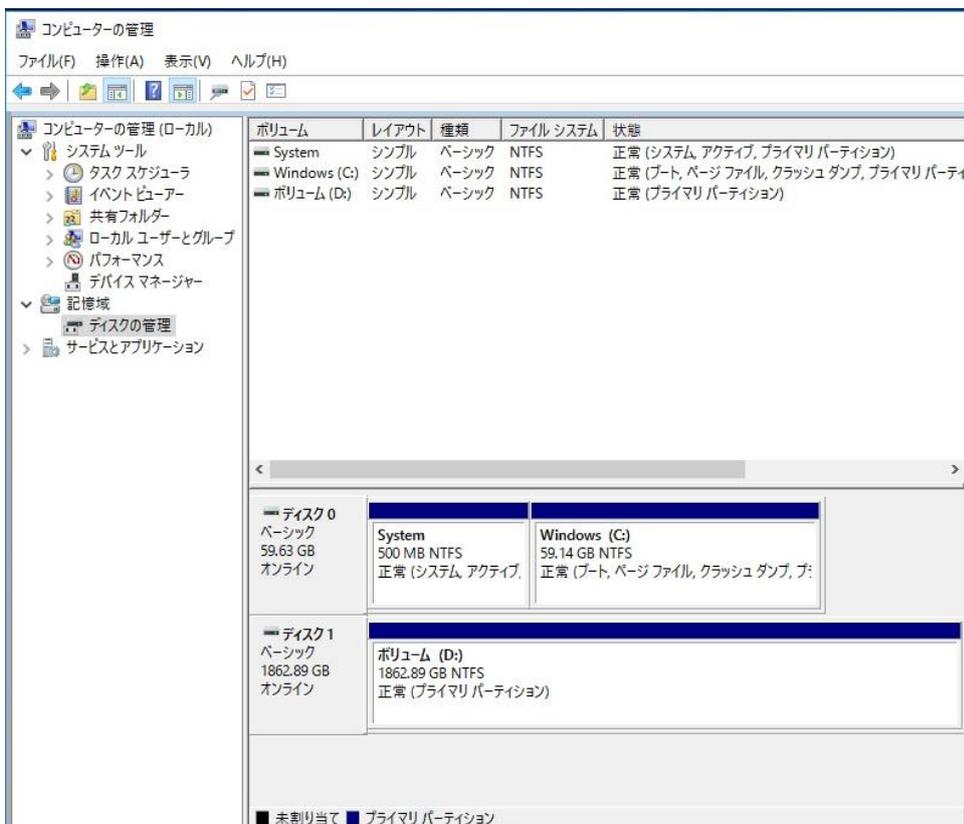
ファイルとフォルダの圧縮を有効にする(E)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. **【完了】** を選択するとボリュームの作成が開始されます。



9. ボリュームが正常状態になったことを確認します。エクスプローラーからもボリュームとして認識可能となります。



5. 運用時の注意事項

5-1. OS プロダクト CD

本製品にはリカバリDVDを添付していますが、OS プロダクト CD は同梱されておりません。

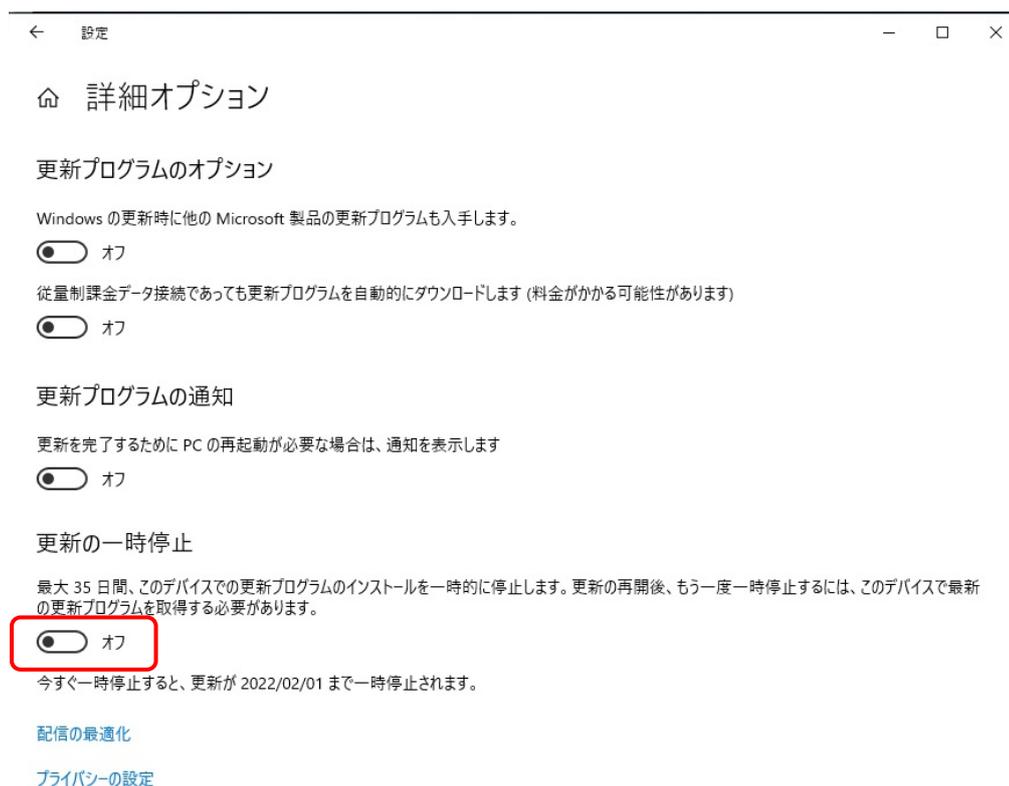
5-2. Windows Update

① [更新の一時停止]を無効に設定します。(出荷設定：無効)

無効に設定される場合、自動にアップデートをダウンロードして、インストールされます。

自動に再起動されることがありますので、日常の動作に支障が出ないように、

[詳細オプション] → [更新の一時停止]を有効に設定できます、Windows の新機能が最大 35 日間ダウンロードまたはインストールされません。



② アクティブ時間

更新プログラムのインストールを完了するために再起動が必要な場合でも、アクティブ時間の開始時刻～終了時刻間に、コンピューターが再起動されることはありません。

日常の仕事に支障が出ないように、適当に設定してください。

アクティブ時間

このデバイスを通常いつ使うかを知らせるアクティブ時間を設定します。アクティブ時間中は自動的に再起動せず、使用中がどうかを確認せずに再起動することはありません。

開始時刻

8	00
---	----

終了時刻 (最大 18 時間)

20	00
----	----

保存 キャンセル

5-3. 2TB 以上のディスク認識

ディスクの管理で、ディスクの初期化を行う際、ディスクが 2TB 以上で認識される場合は、GPT (GUID パーティションテーブル) を選択する必要があります。

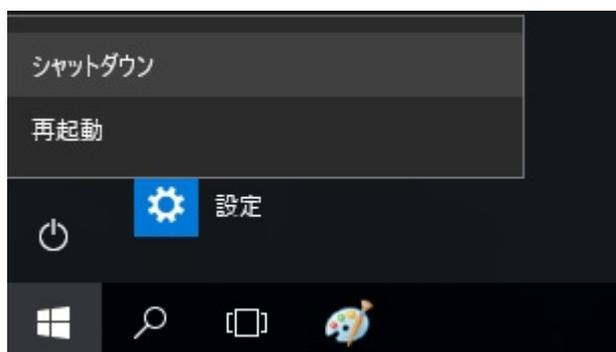
6. Windows 10 操作/設定手順

6-1. OS のシャットダウン

1. Windows へサインインが完了した状態に、[スタート]  ボタンを左クリック→[電源ボタン]  を左クリックします。

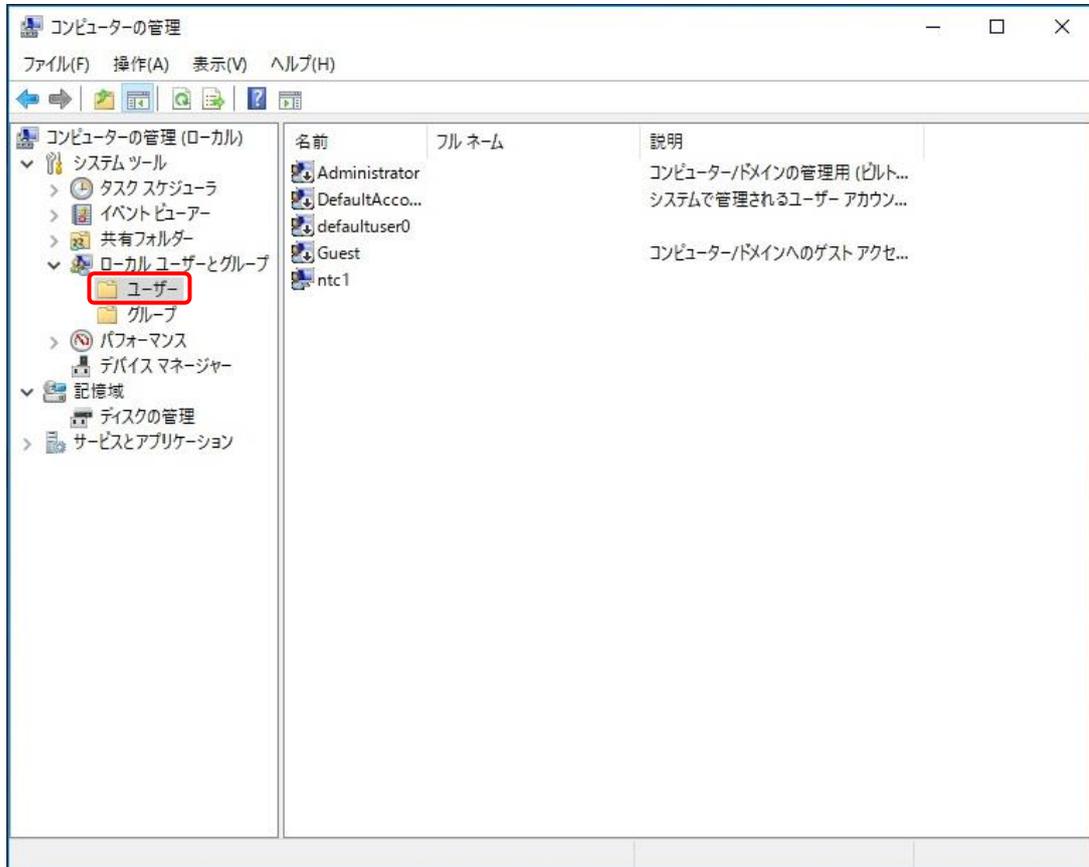


2. [シャットダウン]をクリックすると、システムがシャットダウン処理を開始します。

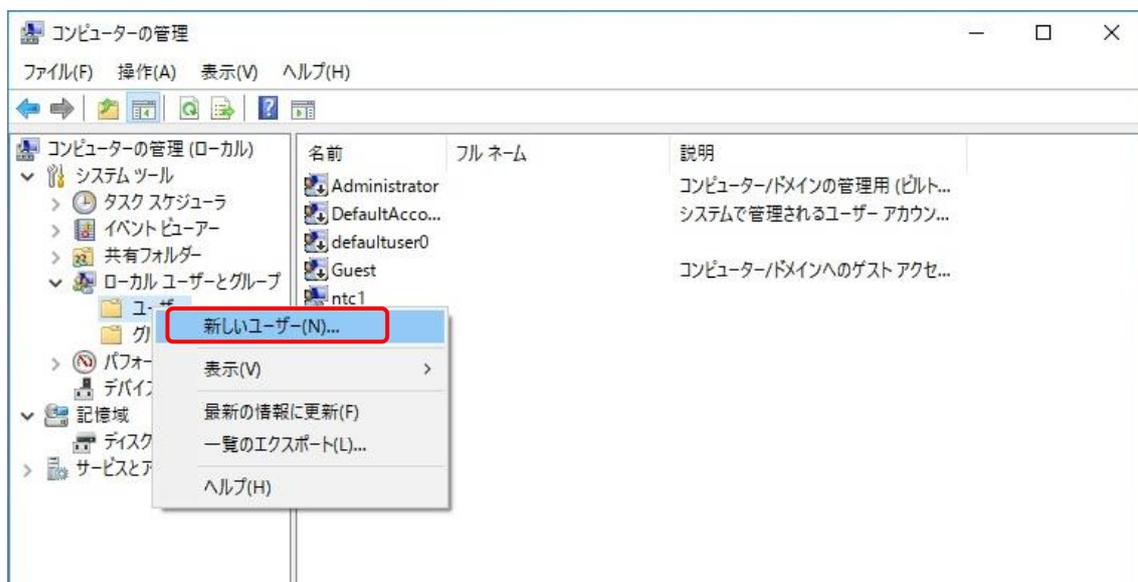


6-2. ユーザーの作成

1. [スタート]  ボタンを右クリック→[コンピューターの管理]を選択、[ローカル ユーザーとグループ]→[ユーザー]より、設定します。



2. [ユーザー]を右クリックして、[新しいユーザー]をクリックします。



3. [ユーザー名]と[パスワード]、[パスワードの確認入力]を入力し、[作成]ボタンをクリックします。必要に応じて、その他の項目も設定してください。

新しいユーザー

ユーザー名(U): newtech

フルネーム(F):

説明(D):

パスワード(P):

パスワードの確認入力(C):

ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要(M)

ユーザーはパスワードを変更できない(S)

パスワードを無期限にする(W)

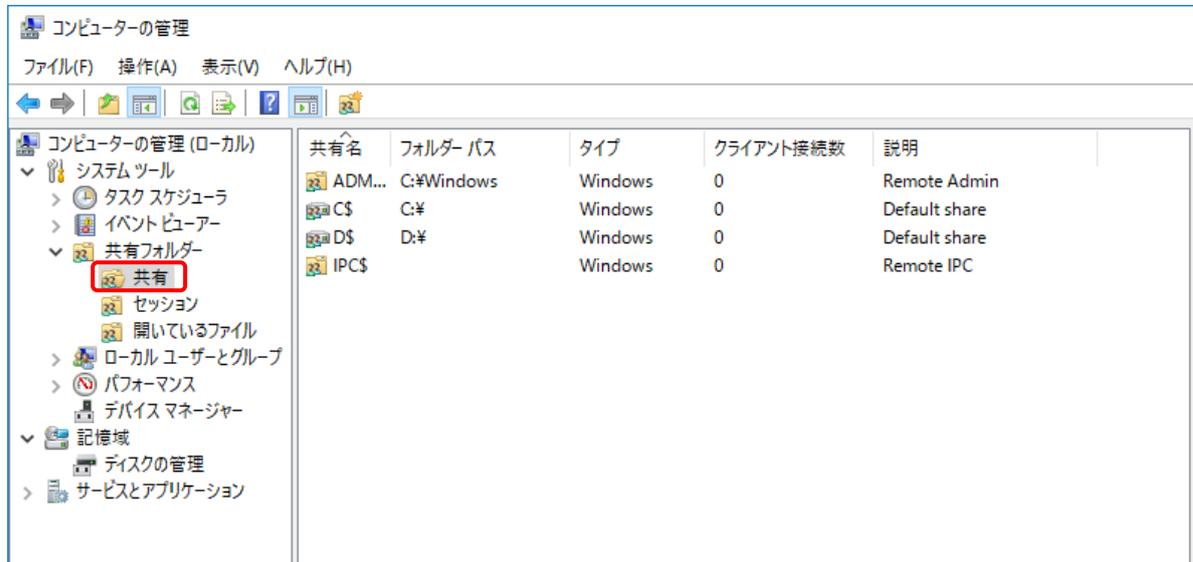
アカウントを無効にする(B)

ヘルプ(H) 作成(E) 閉じる(O)

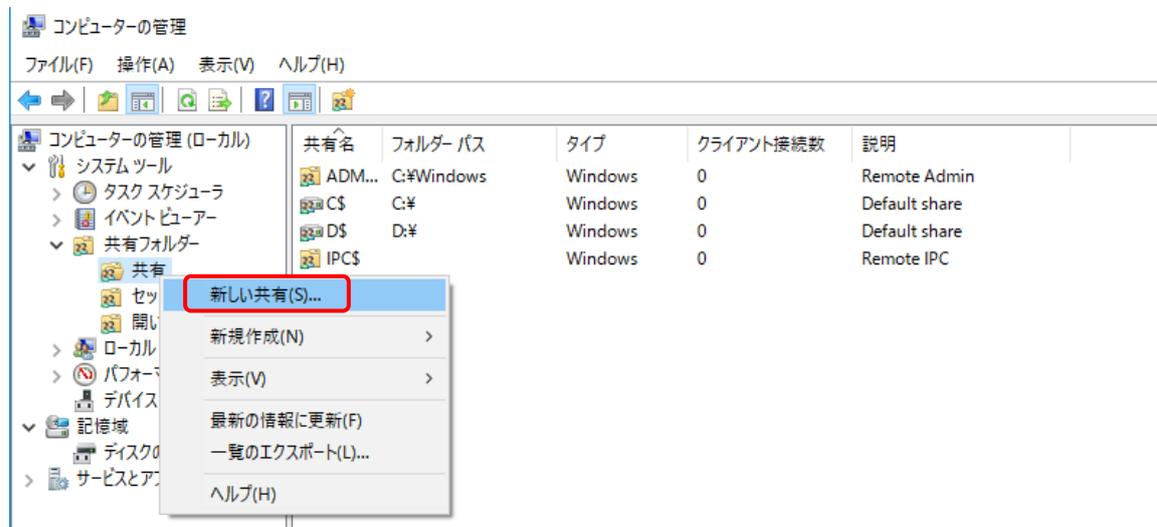
以上で、“ユーザーの作成”は完了です。

6-3. 共有フォルダーの作成

1. [スタート]  ボタンを右クリック→[コンピューターの管理]を選択、[共有フォルダー]→ [共有]より、設定します。



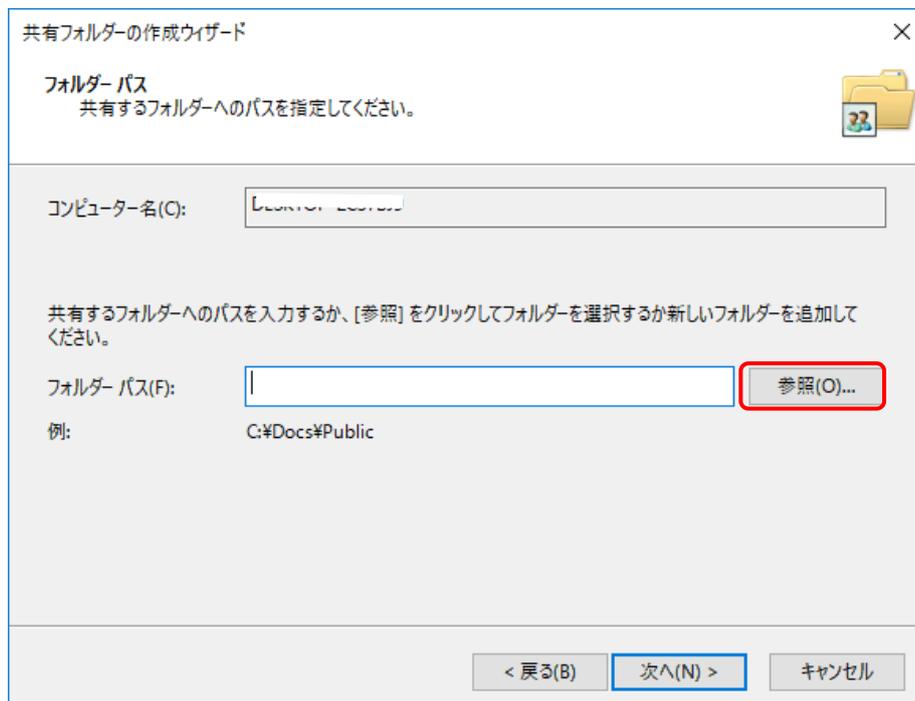
2. [共有] を右クリックして、[新しい共有] を選択します。



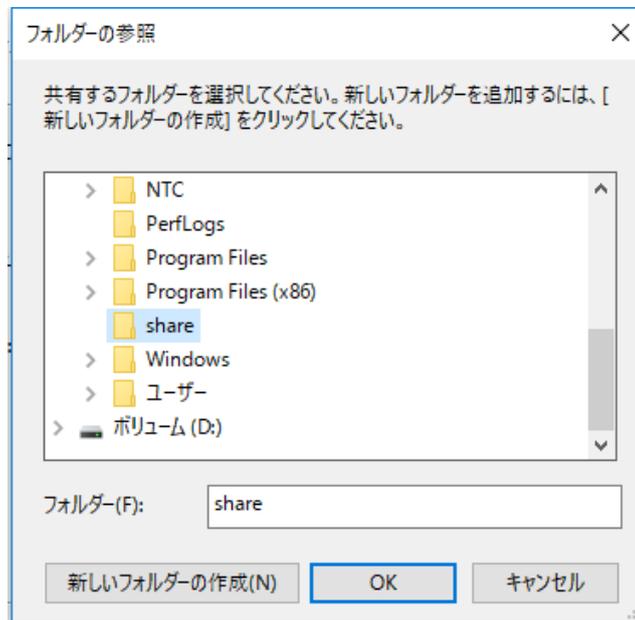
3. “共有フォルダーの作成ウィザードの開始” ウィンドウが起動しますので、[次へ] ボタンをクリックします。



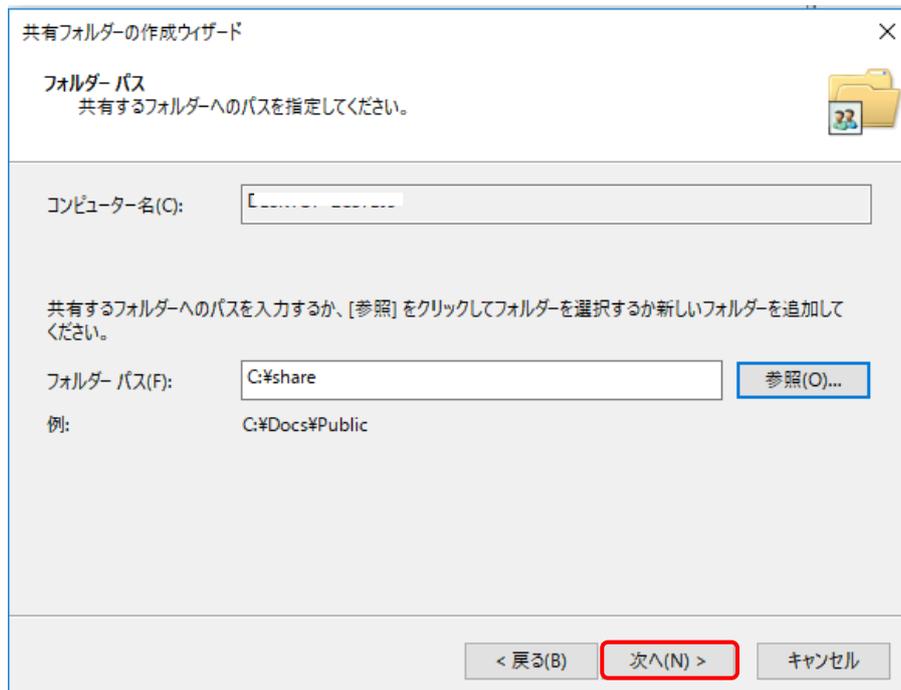
4. “フォルダーパス” ウィンドウで、[参照] ボタンをクリックします。



5. “フォルダーの参照” ウィンドウで、既存のフォルダーを選択か[新しいフォルダーを作成]ボタンをクリックし、フォルダーを作成して、[OK] ボタンをクリックします。



6. 項番 4 の画面に戻ります。フォルダーパスを確認後、[次へ]ボタンをクリックします。



7. **【共有名】**を入力し**【次へ】**ボタンをクリックします。

共有フォルダーの作成ウィザード

名前、説明および設定
ほかのユーザーがこの共有をネットワーク上でどのように参照および利用するかを指定してください。

共有に関する情報を入力してください。ユーザーがオフラインで内容を利用する方法を変更するには、[変更] をクリックしてください。

共有名(S): share

共有パス(P):

説明(D):

オフラインの設定(O): 選択されたファイルとプログラムのみオフライン利用可能 変更(C)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. “共有フォルダーのアクセス許可” ウィンドウで、**【アクセス許可をカスタマイズする】**をチェックして、**【カスタマイズ】**ボタンをクリックして、アクセス許可を設定します。

共有フォルダーの作成ウィザード

共有フォルダーのアクセス許可
アクセス許可により、フォルダーを参照できるユーザーやアクセスのレベルを制御できます。

共有フォルダーにアクセス許可を設定してください。

すべてのユーザーが読み取り専用のアクセスを持つ(A)

Administrators がフル アクセスを持ち、他のユーザーは読み取り専用のアクセスを持つ(R)

Administrators がフル アクセスを持ち、他のユーザーはアクセスを持たない(O)

アクセス許可をカスタマイズする(C)

カスタマイズ(U)...

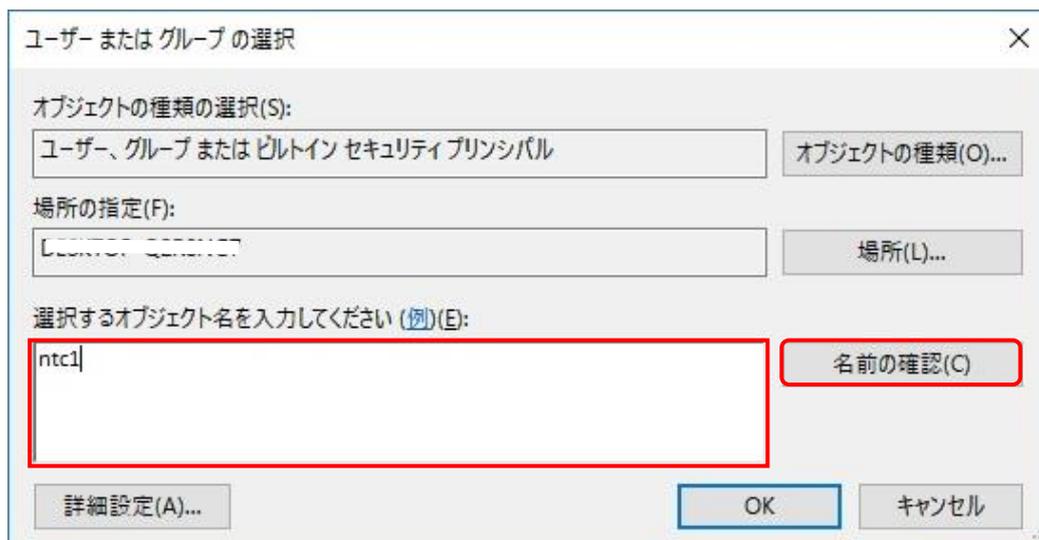
既定では、このフォルダーには共有アクセス許可だけが設定されます。このフォルダーまたはフォルダーの中のオブジェクトに対するローカル アクセスのアクセス許可を制御するには、[カスタム] をクリックしてから [セキュリティ] タブのアクセス許可を修正して、フォルダーに特定のアクセス許可を適用してください。

< 戻る(B) 完了 キャンセル

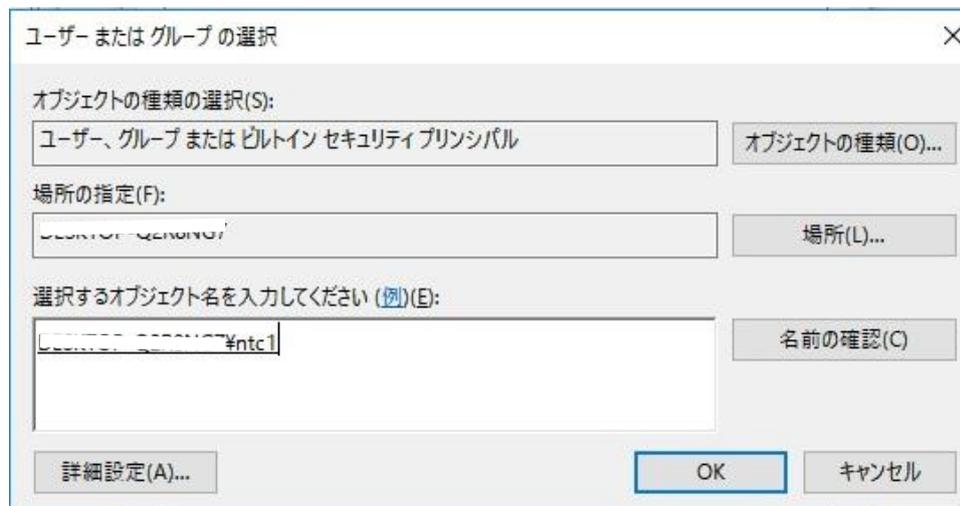
9. “アクセス許可のカスタマイズ” ウィンドウで、**[追加]** をクリックして、指定のユーザーのアクセス権を設定します。



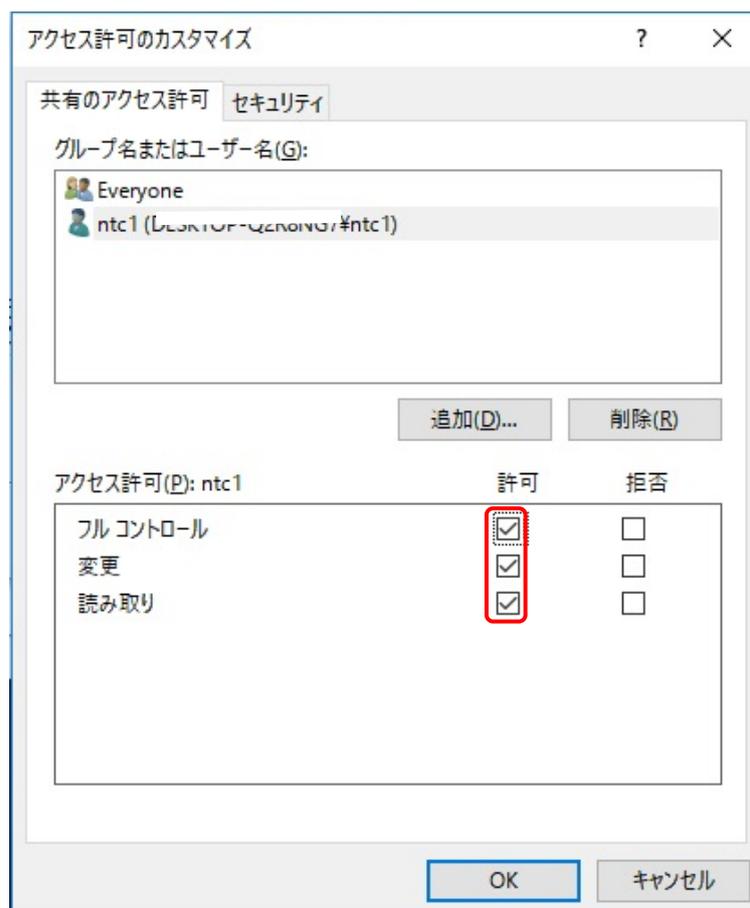
10. 入力欄に、共有に対してアクセス可能なユーザ(例 : ntc1)を入力します。**[名前の確認]**ボタンをクリックします。



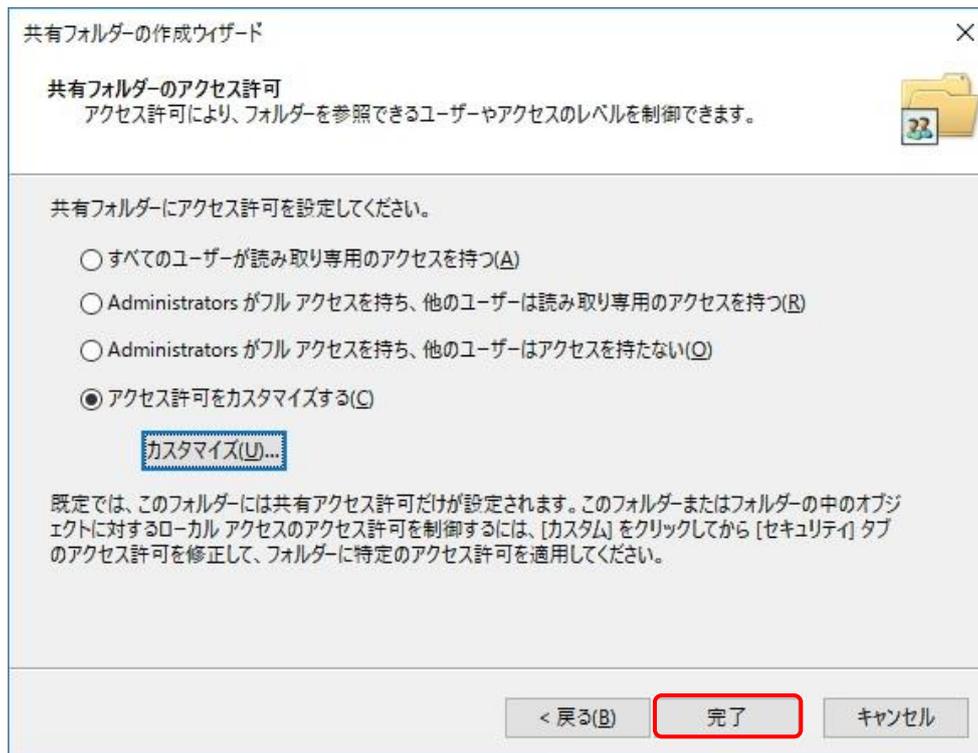
有効なオブジェクトの確認が取れたら、“コンピューター名¥ユーザー名”を表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



11. 追加したユーザー（グループ）に対してアクセス権を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



12. 項目 8 の画面に戻ります。 [完了] ボタンをクリックしてください。



13. 次の画面に、“共有に成功しました”が表示されます。 [完了] ボタンをクリックしてください。

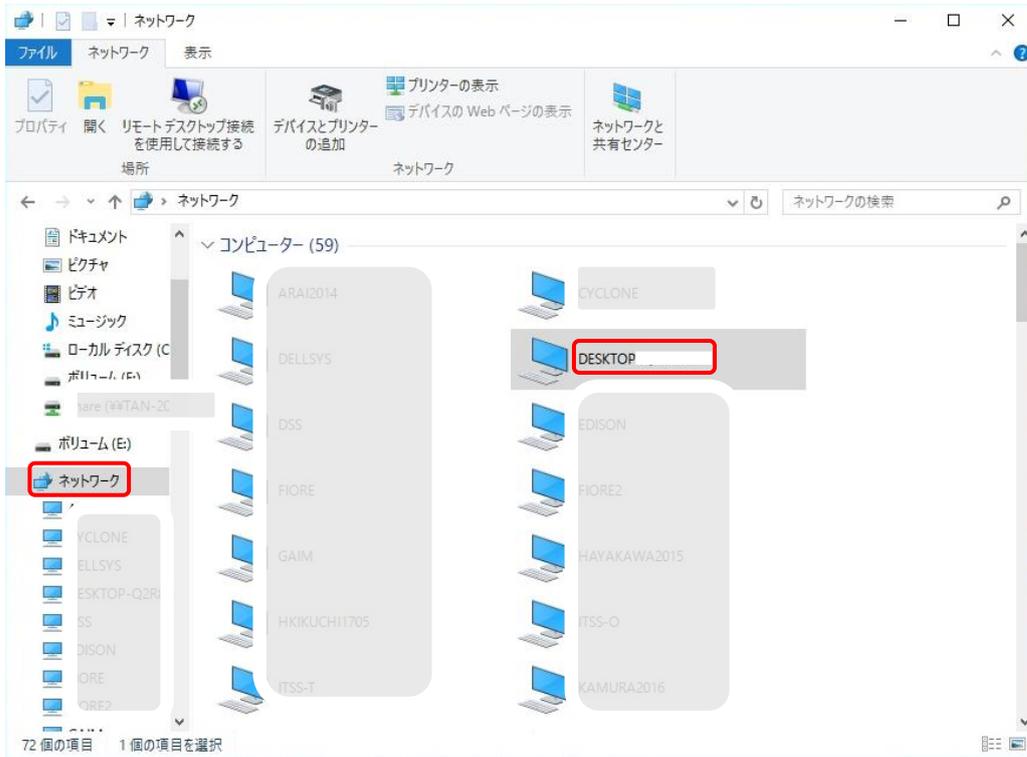


以上で、“共有フォルダーの作成”は完了です。

6-4. ネットワークドライブの割り当て

ネットワーク上から本製品を参照する際に、ネットワークドライブとして割り当てておくことができます。以下は、Windows 10 OS を搭載するパソコンからアクセスする例で説明します。

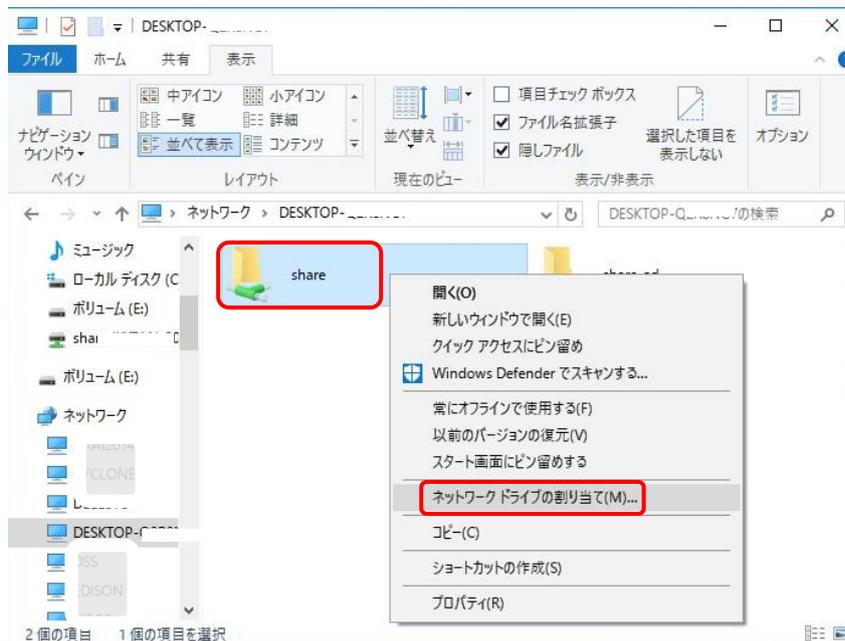
1. ネットワークネットワークに接続されているパソコンで、[スタート]  ボタンを右クリック→ [エクスプローラー] を選択します。 [ネットワーク] をクリックし、本製品を選択します。



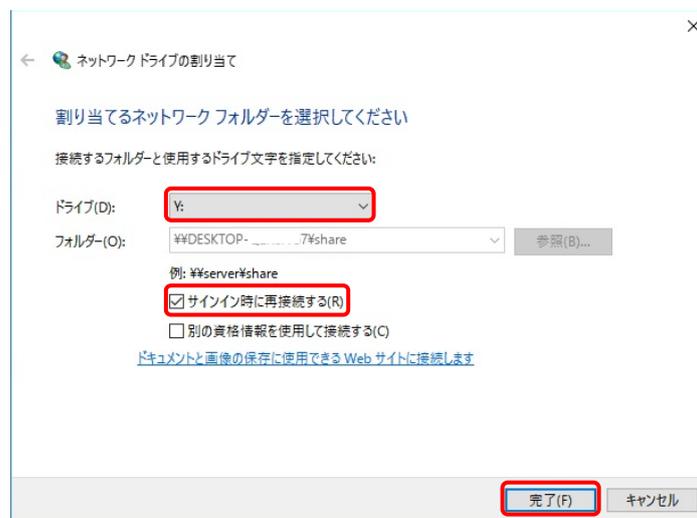
2. “ネットワーク資格情報の入力”が表示される場合、ユーザー名とパスワードを入力してから、「OK」をクリックします。



3. 本製品の共有フォルダーを表示後、右クリックして表示されたメニューの[ネットワークドライブの割り当て]をクリックします。



4. ネットワークドライブを割り当てます。



- ① ドライブで本製品に割り当てるドライブを選択します。
- ② [サインイン時に再接続する]にチェックを入れます。※
- ③ [完了]ボタンをクリックします。

[エクスプローラー]を開き、割り当てられたドライブが認識されていることを確認ください。

以上で、“ネットワークドライブの割り当て”は完了です。

6-5. 日時の設定

1. 画面右下のタスクトレイに表示されている時刻を右クリックし、[日付と時刻の調整]をクリックします。



2. “時刻を自動的に設定する”を[オフ]に設定して、“日付と時刻を変更する”下の[変更]ボタンをクリックして、手動的に時刻を設定します。

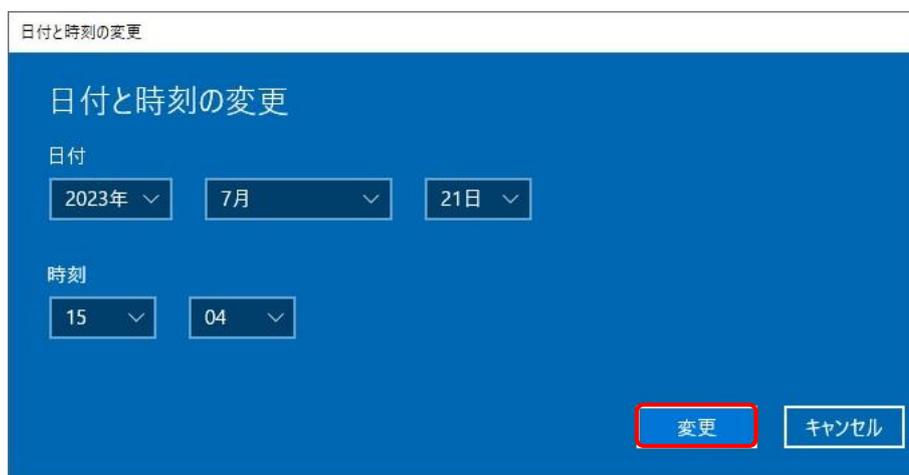


インターネットに接続されている環境の場合は、“時刻を自動的に設定する”下のスライダーを
 オフ ⇄ オン にすると、自動で正しい時刻を取得することができます。

※ ドメインに参加する場合、下図のように、“日付と時刻を変更する”下の[変更]ボタンがグレーになり、日時を設定できないことがあります。



3. 設定する項目のプルダウンボタンをクリックし、値を選択して、[変更]ボタンをクリックします。

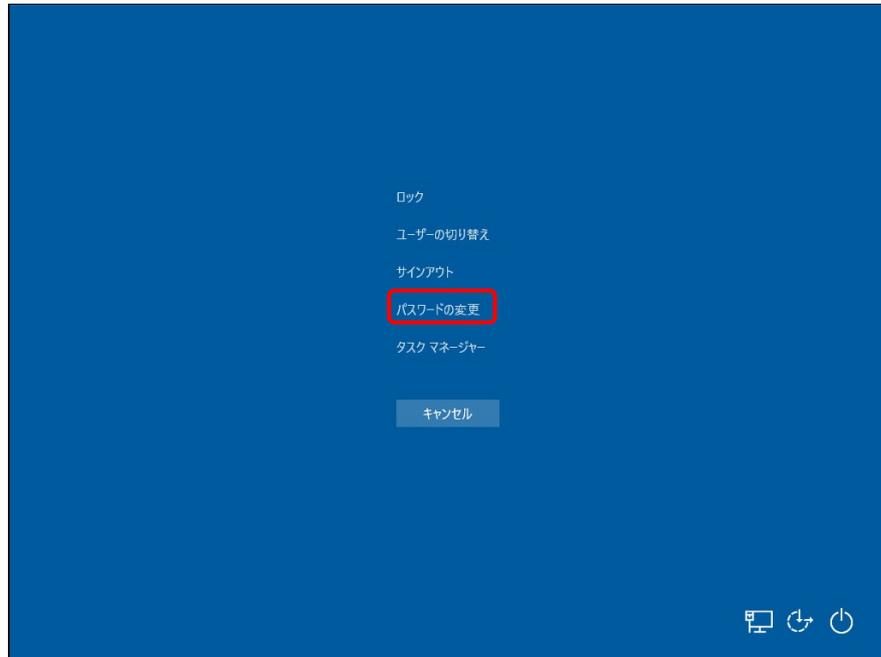


以上で、“日時の設定”は完了です。

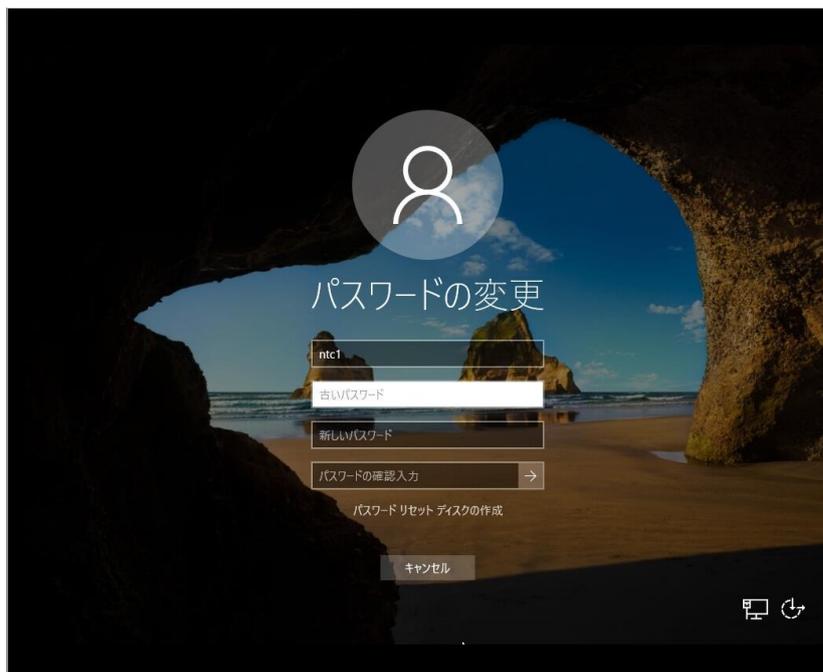
6-6. パスワードの変更

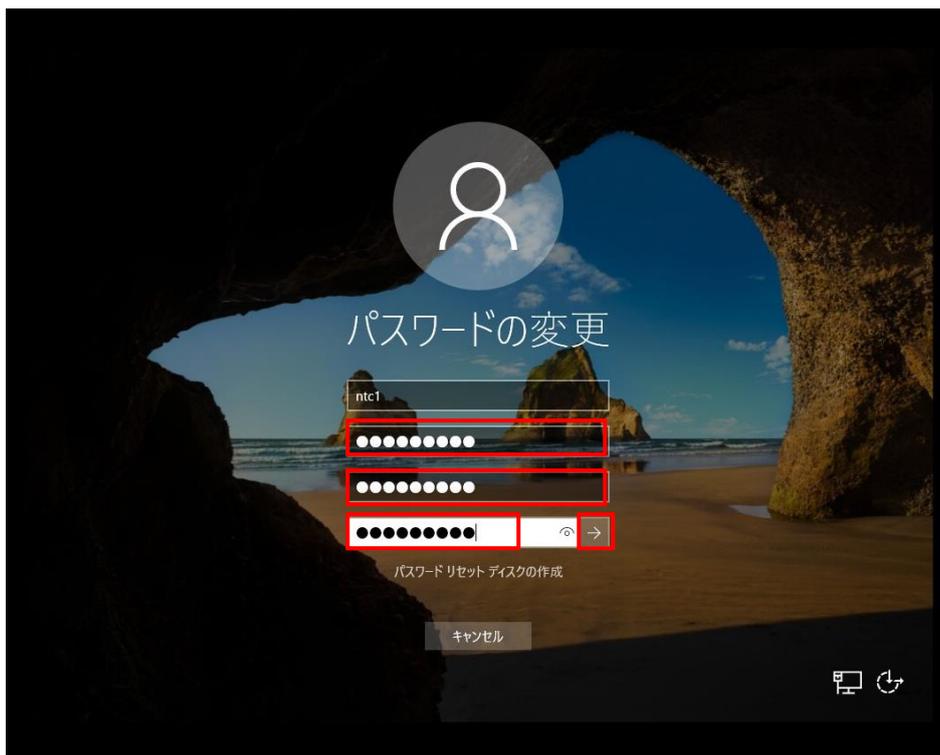
管理者権限を持つユーザーのパスワードは、セキュリティのため定期的に変更することを推奨します。以下の例で、サインイン中の管理者権限を持つユーザーのパスワードを変更します。

1. 管理者権限を持つユーザーで Windows へサインインが完了した状態で、Ctrl + Alt + Del キー (Ctrl、Alt、Delete 三つのキーを同時に押します。) を押し、[パスワードの変更] をクリックします。

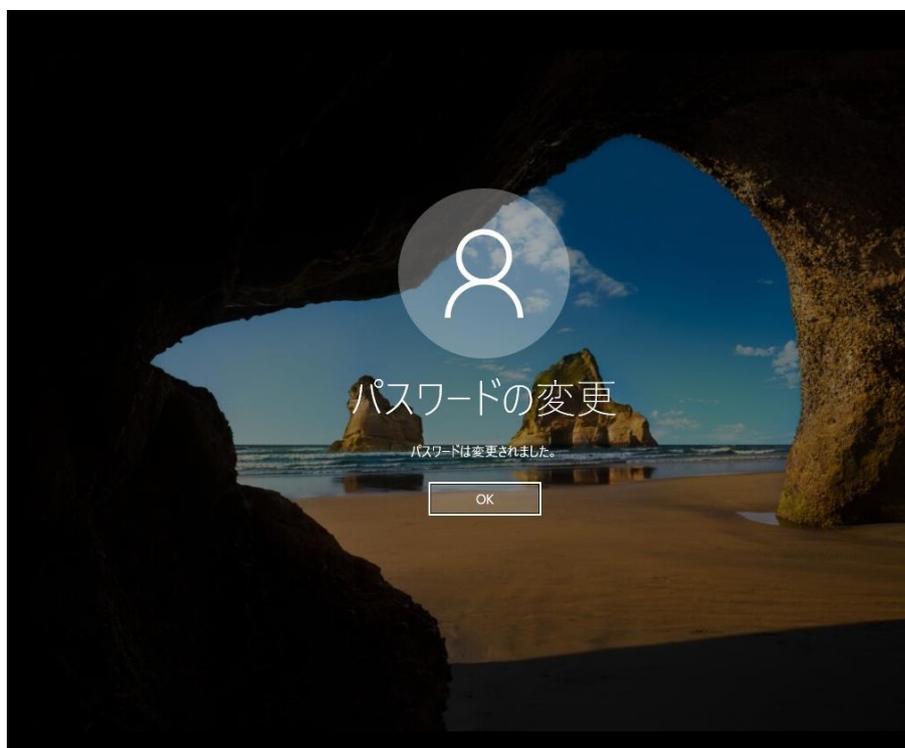


2. “パスワードの変更” の画面で、[古いパスワード]、[新しいパスワード]、[パスワードの確認入力] の順に、サインイン中のユーザーのパスワードを設定して、[→] をクリックします。





3. 以下の画面が表示され、パスワードの変更が完了しました。【OK】をクリックして、この画面を閉じます。

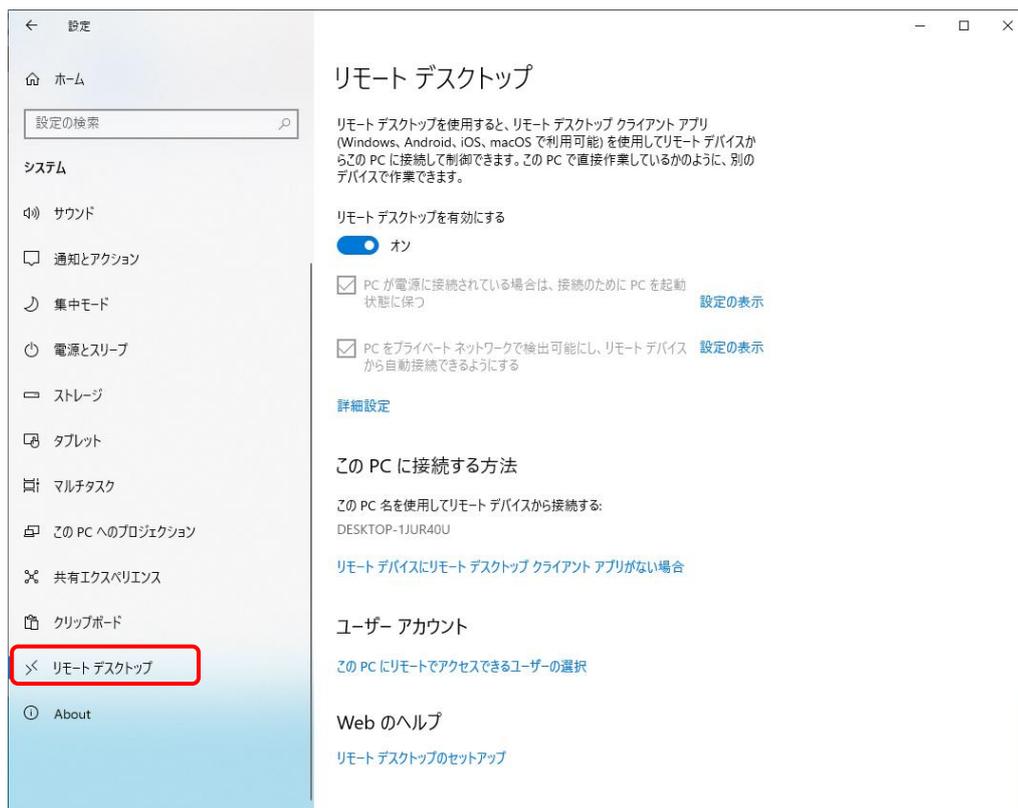


以上で、“パスワードの変更”は完了です。

7. リモートデスクトップ設定

7-1. 本製品側の接続設定

1. [スタート]  ボタンを右クリック → [システム]を左クリック、画面左の[リモート デスクトップ] をクリックします。

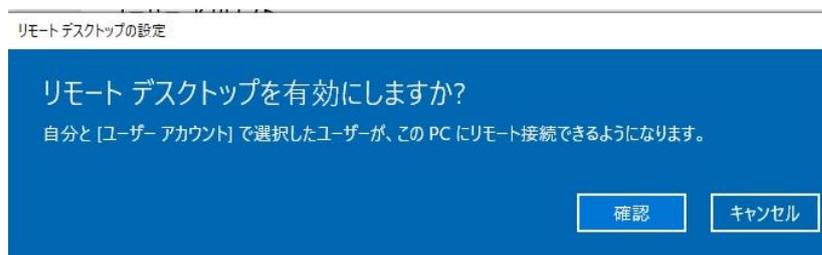


2. “リモート デスクトップ” 設定画面で、[リモート デスクトップを有効にする]を“オン”にします。

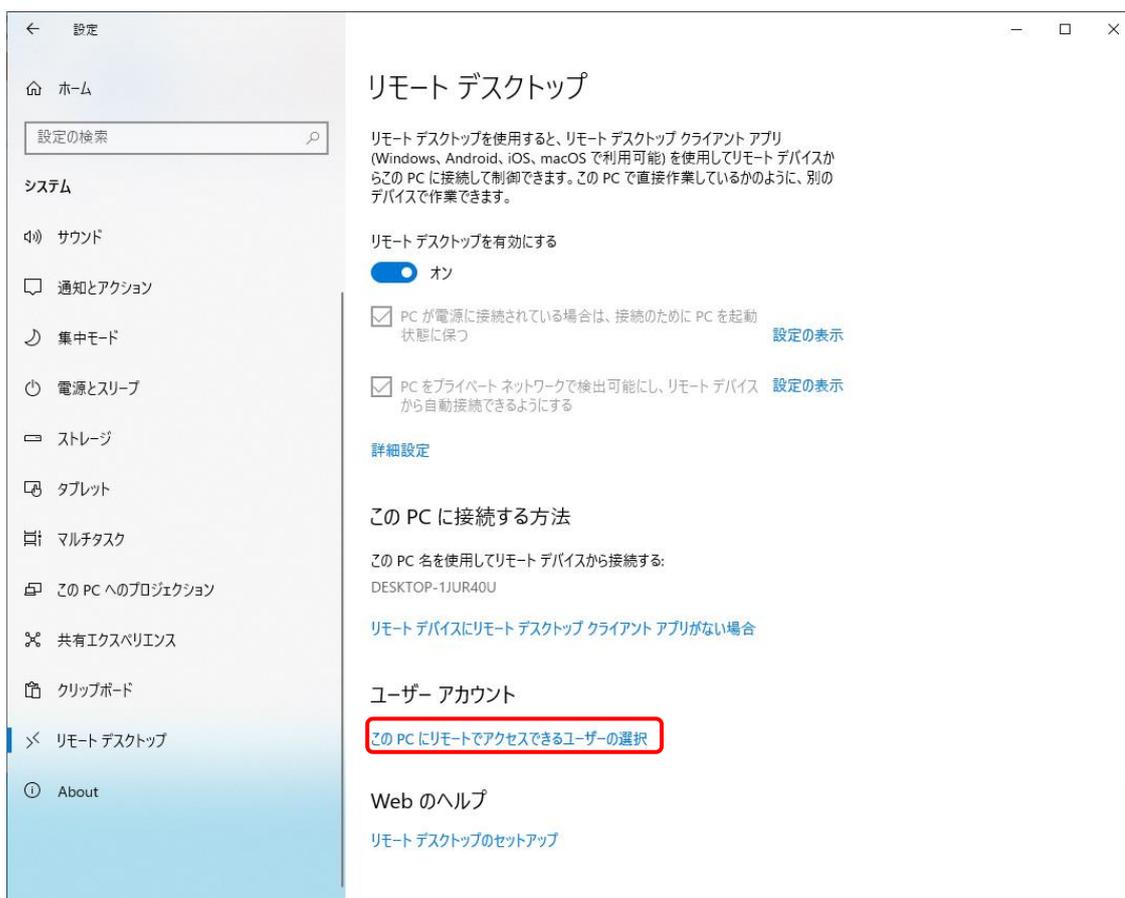


※出荷時に、有効に設定されています。

3. 確認画面で、**[確認]**をクリックします。



4. リモート デスクトップが有効になった画面で、**[この PC にリモートでアクセスできるユーザーの選択]**ボタンをクリックして、リモートでアクセスできるユーザーが設定できます。



5. **[追加]**または**[削除]**ボタンをクリックしてユーザーにアクセス権を付与し**[OK]**をクリックします。



6. **[OK]**をクリックして、設定画面を閉じます。

7-2. ファイアウォール設定の確認

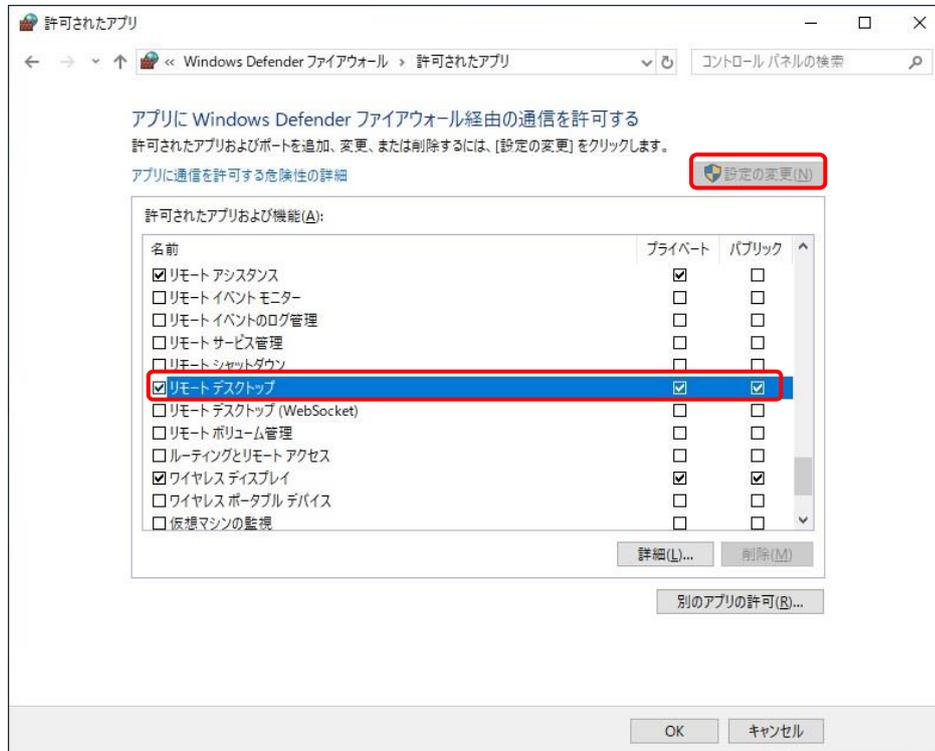
1. ファイアウォール設定確認画面は以下の手順で表示させます。

[スタート]  ボタンを左クリック → **[Windows システム ツール]** → **[コントロールパネル]** → **[システムとセキュリティ]** → **[Windows Defender ファイアウォール]** → **[Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可]** を選択します。



2. 「設定の変更」をクリックして、許可されたアプリおよび機能のリストに、[リモートデスクトップ]にチェックを入れ、ご使用の環境に合わせて、[プライベート]と[パブリック]のチェックを入れ、[OK]をクリックします。

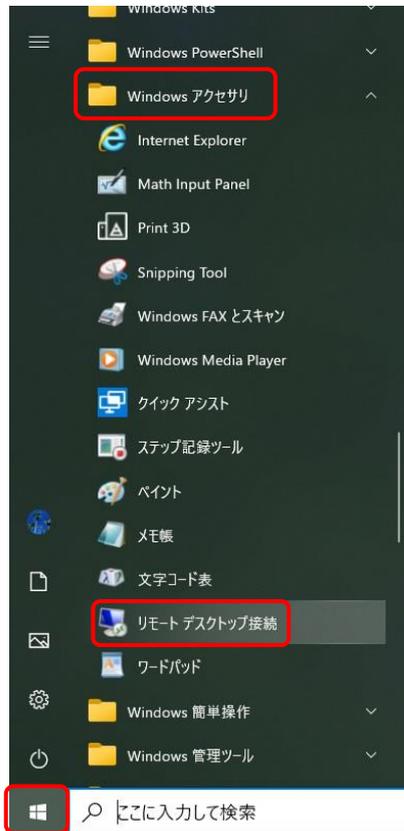
※既に設定されている場合は「キャンセル」で戻ってください。



7-3. Windows10 など PC からの接続

以下は Windows 10 を搭載するクライアント PC からアクセス先(本製品)への接続を説明します。

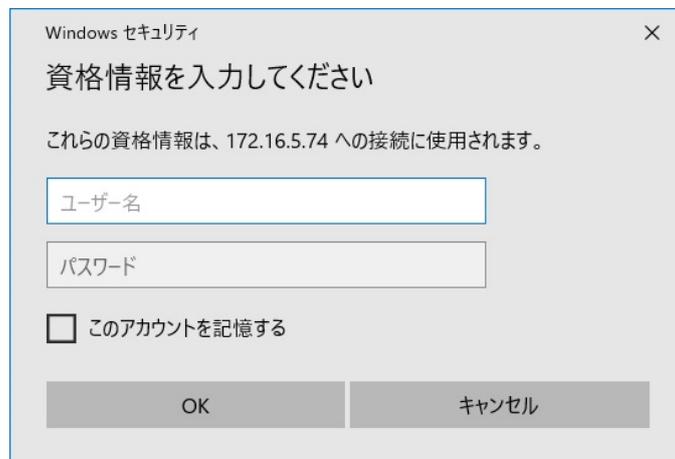
1. クライアント PC で、[スタート]  ボタンを左クリック → [Windows アクセサリ] → [リモート デスクトップ接続] をクリックします。



2. アクセス先の PC 名または IP アドレスを入力し、[接続] ボタンをクリックします。



3. 本製品にアクセス権が付与されたユーザーのユーザー名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。
※ユーザーがパスワードを設定されていない場合は、リモートでアクセスできません。



Windows セキュリティ

資格情報を入力してください

これらの資格情報は、172.16.5.74 への接続に使用されます。

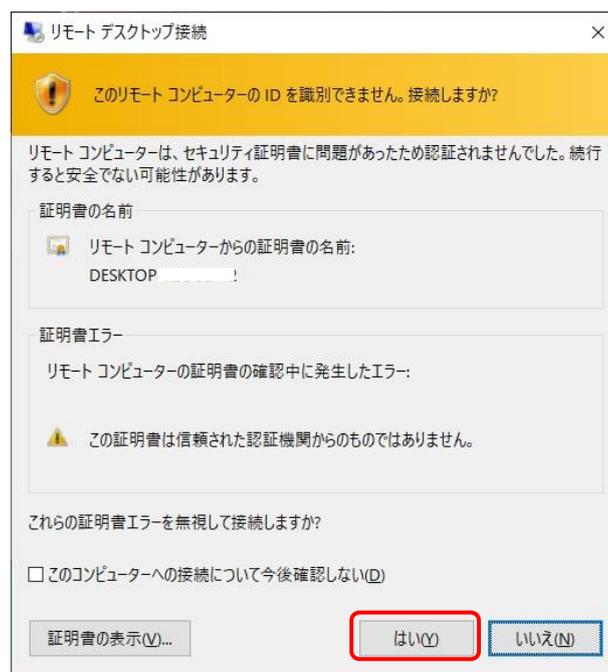
ユーザー名

パスワード

このアカウントを記憶する

OK キャンセル

4. 注意画面が表示されますので、[はい]をクリックします。



リモート デスクトップ接続

このリモート コンピューターの ID を識別できません。接続しますか?

リモート コンピューターは、セキュリティ証明書に問題があったため認証されませんでした。続行すると安全でない可能性があります。

証明書の名前

リモート コンピューターからの証明書の名前:
DESKTOP_.....!

証明書エラー

リモート コンピューターの証明書の確認中に発生したエラー:

この証明書は信頼された認証機関からのものではありません。

これらの証明書エラーを無視して接続しますか?

このコンピューターへの接続について今後確認しない(N)

証明書の表示(V)... はい(Y) いいえ(N)

5. リモート アクセス先(本製品)のデスクトップが表示されます。

以上で、“リモートデスクトップ設定”は完了です。

8. リカバリー手順

Ness を初期出荷構成に戻すための手順について説明します。

USB-DVD ドライブを接続して行なう手順を説明します。

8-1. 準備部材

- ・Ness 本体（電源ケーブル）
- ・ディスプレイ（D-Sub15 ピンまたは HDMI 対応）
- ・キーボード
- ・マウス
- ・USB 接続の外付け DVD ドライブ
- ・リカバリー ディスク x 2 枚（添付品）

8-2. リカバリー手順

リカバリーの注意

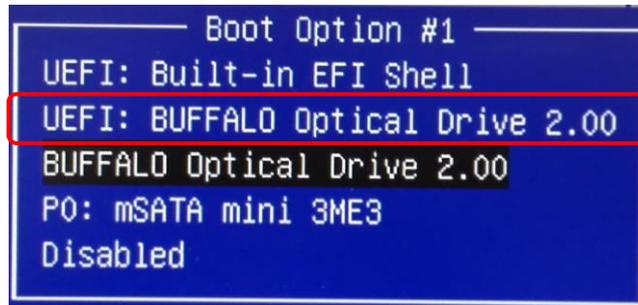
- ・HDDの取り外し、HDDの取り付けの操作は、必ずNessの電源をオフにして実施します。
- ・OSリカバリーを行う前に、NessのHDDスロットからミラーユニットのHDDを取り外して、内蔵mSATAメディアだけの状態にします。
- ・HDDの取り外し方法は、“Ness1000シリーズ ユーザーズマニュアル”から“HDDモジュールの交換方法”を参照してください。
- ・リカバリー完了後、HDDを元に戻してください。

※画面イメージは、多少異なる場合があります。以下の例は Ness1100 で説明します。

1. 電源オフした状態から始めます。
2. フロント HDD をスロットから抜き、背面にディスプレイ、キーボード、マウス、DVD ドライブを接続します。
3. 前面の電源ボタンを押し、本製品を起動させます。起動時に **DEL** キーを押下し、BIOS 設定画面に停止させ、DVD ドライブに 1 枚目のリカバリー ディスクをセットします。
4. 前面の電源ボタンを押し、電源オフします。
5. 数秒後に、再度電源ボタンを押し、本製品を起動させます。
6. 起動時に Boot Menu の起動キーを数回押下し、Boot Menu 画面に入ります、UEFI モード DVD ドライブ [例：UEFI: BUFFALO Optical Drive 2.00]を選択して、Enter キーを押します。

Boot Menuの**起動キー**は機種により、異なります。

Ness1000 の Boot Menu の起動キー： F11
Ness1100 (型番：NESB**) の Boot Menu の起動キー： F7
Ness1100 (型番：NESC**) の Boot Menu の起動キー： F11
Ness1200 の Boot Menu の起動キー： F8:



7. 以下のメッセージが表示されたら、キーボードから **Enter** キーを押してください。

Press any key to boot from CD or DVD..._

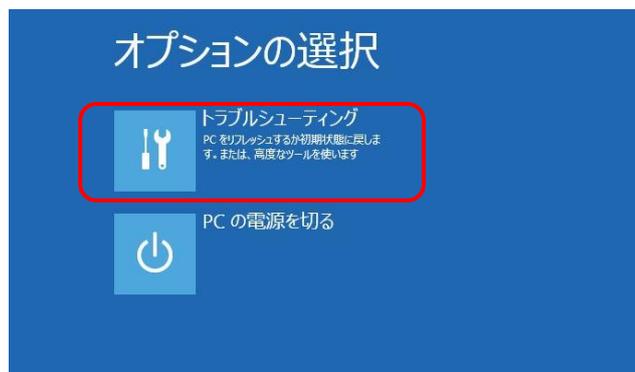
8. “言語の選択” で、[日本語(日本)]を選択します。



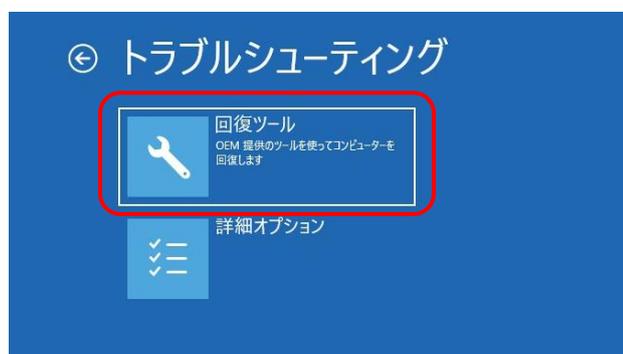
“キーボードレイアウト” の選択画面が表示されますので、[Microsoft IME]を選択します。



9. “オプションの選択”画面が表示されるので、[トラブルシューティング]を選択します。
※ 場合により、画面表示する項目が例と異なることがあります。



10. “トラブルシューティング”画面が表示されるので、[回復ツール]を選択します。
※ 場合により、画面表示する項目が例と異なることがあります。



11. “回復ツール”画面で“Windows 10”が表示された場合は、[Windows 10]を選択します。



ディスク#2 リカバリー・イメージをコピー開始します。
コピー完了後に、イメージを展開する進捗が表示されます。

```
X:\windows\system32\cmd.exe
[ R ] リカバリーを開始します。
[ Q ] リカバリーを中止します。

リカバリー・イメージを検索しています。

本当にリカバリーを実行開始しますか？(y/n)
y
DISKの再パーティションを実行します。

ディスク#1 リカバリー・イメージファイルをコピーしています...
リカバリーディスク#2をDVDドライブに入れて、準備完了？(y/n)
y
リカバリー・イメージを検索しています。

ディスク#2 リカバリー・イメージファイルをコピーしています...
Windowsイメージを適用します。
展開イメージのサービスと管理ツール
バージョン: 10.0.17763.1
イメージを適用しています
1.0%
```

15. 進捗が100%になると、“リカバリーは正常に終了しました。”というメッセージが表示されます。リカバリーメディアを取り出し、DVDドライブを取り外し、[Enter]キーを押し、本製品がシャットダウンされます。

```
X:\windows\system32\cmd.exe
ディスク#1 リカバリー・イメージファイルをコピーしています...
リカバリーディスク#2をDVDドライブに入れて、準備完了？(y/n)
y
リカバリー・イメージを検索しています。

ディスク#2 リカバリー・イメージファイルをコピーしています...
Windowsイメージを適用します。
展開イメージのサービスと管理ツール
バージョン: 10.0.17763.1
イメージを適用しています
[=====100.0%=====]
操作は正常に完了しました。
REAGENTC.EXE: 操作は成功しました。

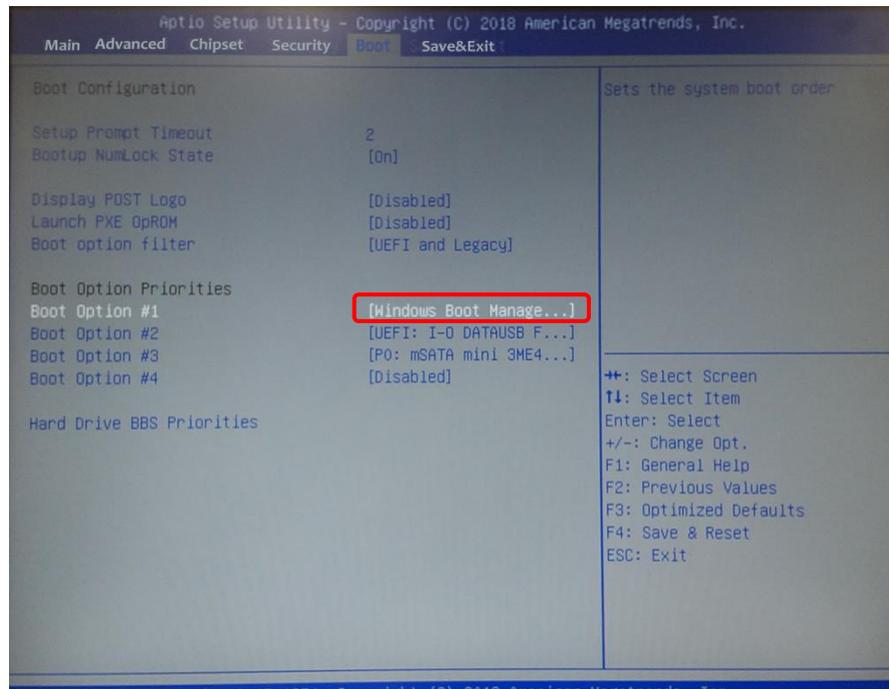
リカバリーは正常に終了しました。

自動シャットダウン後に、以下の作業を実施してください。
1. リカバリー・メディアを取り外してください。
2. すべてのRAIDのディスクを挿入して再度電源投入してください。

自動シャットダウン開始します。
続行するには何かキーを押してください...
```

16. 電源オフ状態で、リカバリー時に取り外したHDDを取り付けてください。前面の電源ボタンを押し、本製品を起動させます。

17. 起動時に DEL キーを押し、BIOS 設定画面に入り、起動デバイスを設定します。
メニュー [BOOT] → 「Boot option#1」又は「Dual Boot Order #1」に、起動デバイスを
下図の例のように、「Windows Boot Manager」を設定します。



メニュー [Save & Exit] → [Save Changes and Reset] を選択して、設定を保存して再起動が開始します。

以降は、本書の“Windows 10 セットアップ”を参照し設定を行なってください。

以上で、“リカバリー手順”は完了です。

株式会社ニューテック

<https://www.newtech.co.jp>

Copyright© 2023, Newtech Co., Ltd. All rights reserved.